大阪大学 CO デザインセンター

大学院副専攻／大学院等高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」

STiPS 公共圏における科学技術・教育研究拠点（STiPS）
Program for Education and Research on Science and Technology in Public Sphere [STiPS]

大阪大学 OSAKA UNIVERSITY

履修ガイドブック・シラバス

2023

科学技術と社会を

架橋するのは誰か。

STiPS

公共圏における科学技術・教育研究拠点

副専攻／高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」が目指すもの

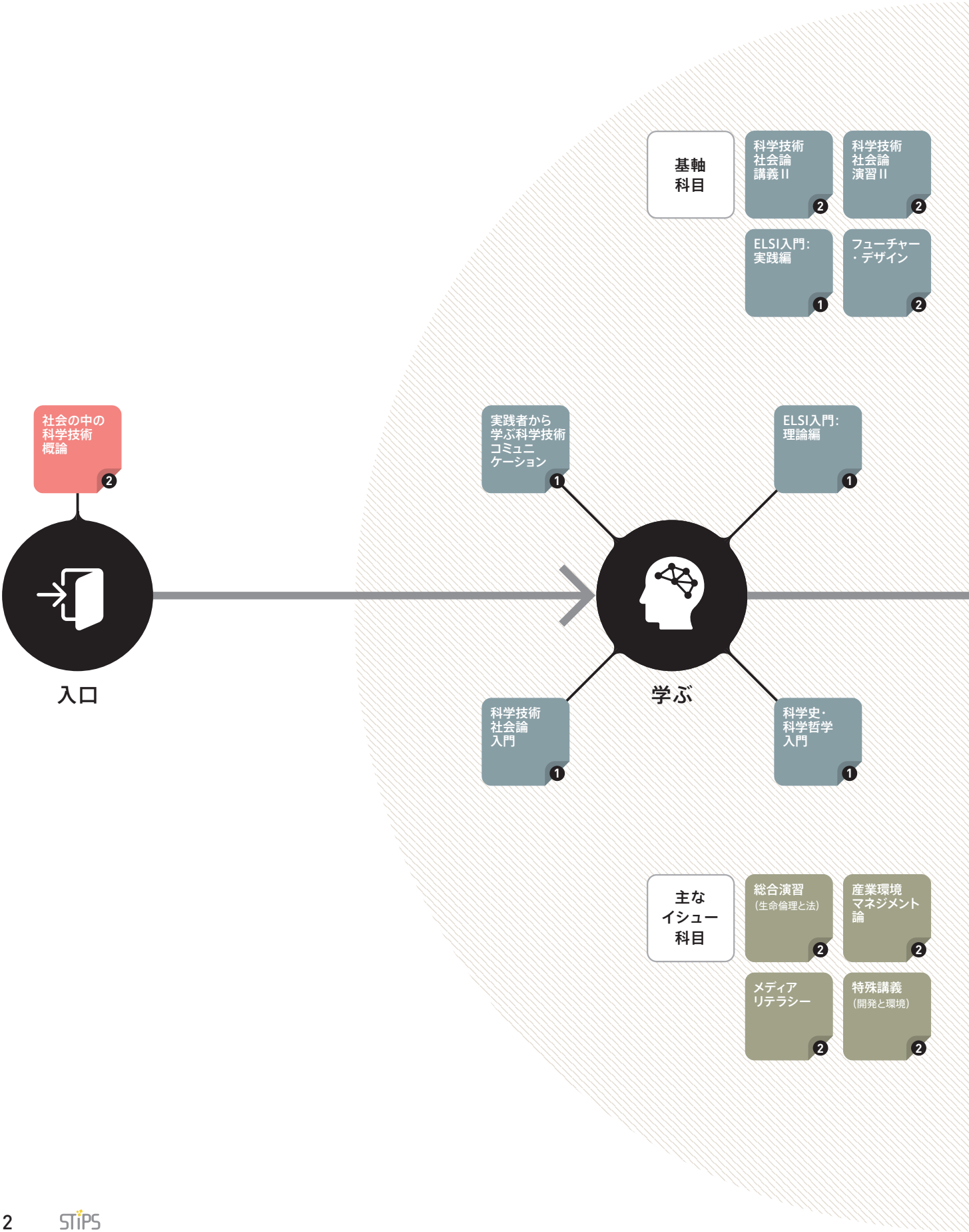
科学技術政策は、今まで研究者の視点に立った研究振興のための政策と考えられてきました。しかし、科学技術が社会の中に深く根付き、豊かさや便利さをもたらす重要な存在になってきた現代においては、科学技術政策の在り方も変わらなければなりません。つまり、社会にとって必要な科学技術、望ましい科学技術の振興のための政策が必要なのです。端的に言えば、「人々がどんな世界に生きたいと欲しているか」という問いに科学技術がどう答えるかを考える政策です。これをわれわれは「公共圏における科学技術政策」と呼んでいます。

この政策では、科学技術や公共政策に対する社会の期待・懸念・問題認識を把握し、反映させていくことが求められます。そこで不可欠なのは、社会の多様な主体による熟議（対話と熟慮）をふくむ「科学技術への公共的関与（public engagement）」や「科学技術の倫理的・法的・社会的課題（ELSI）」研究が生み出すエビデンス（根拠）です。

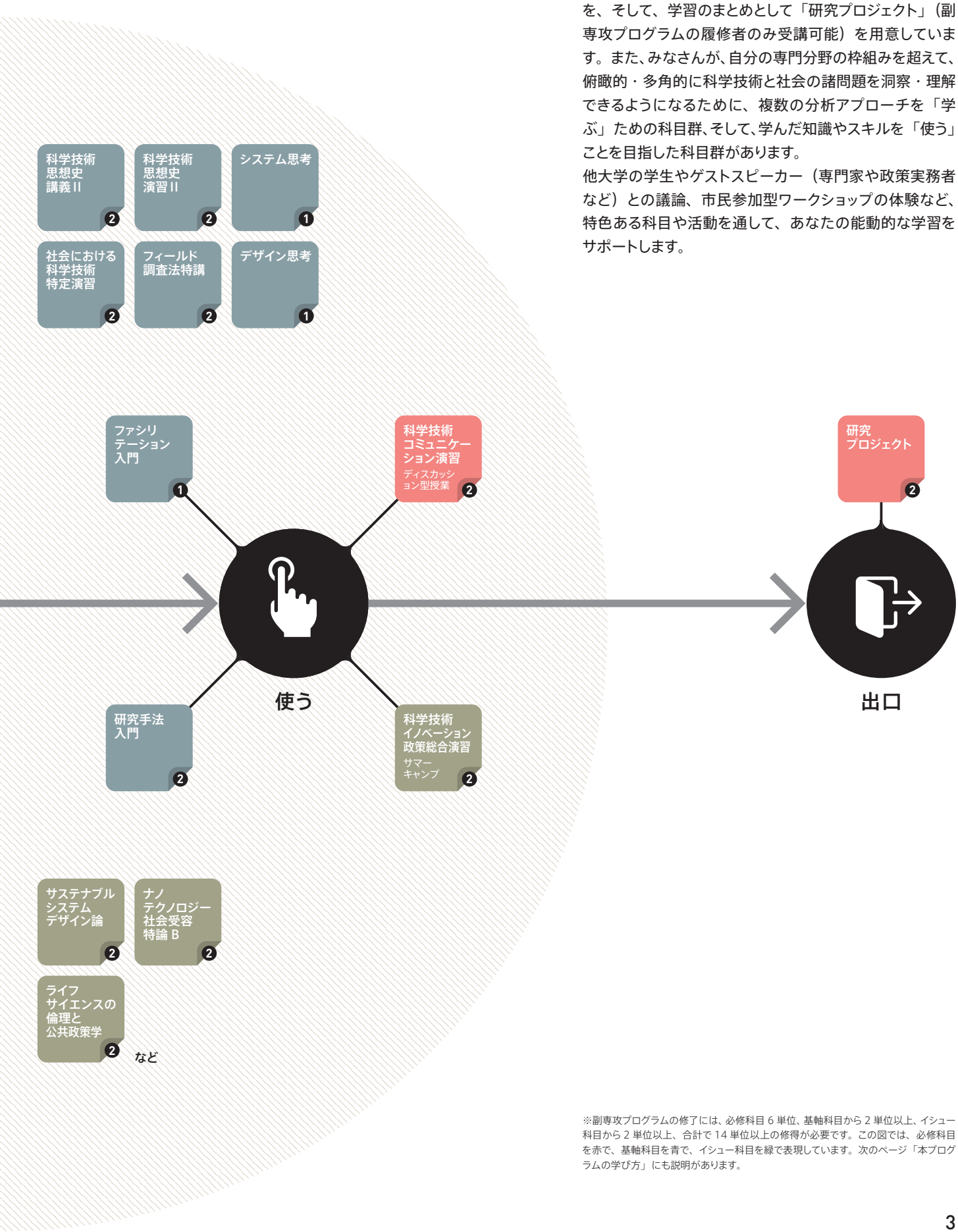
このような考え方に基づき、本プログラムは、ELSI に関する研究を基盤として公共的関与の活動と分析を行い、「学問諸分野間ならびに学問と政策・社会の間を「つなぐ」ことを通じて政策形成に寄与できる人材」の育成を目指します。今求められているのは、自らの専門分野の枠組みを超えて、広く俯瞰的・多角的に科学技術と社会の諸問題・課題を洞察・理解し、かつ公共的関与の活動と分析を行えるような知識とセンス、実践的な能力を備えた人材なのです。

なお、本プログラムは、文部科学省の科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点に選定された、大阪大学及び京都大学の連携による「公共圏における科学技術・教育研究拠点（STiPS）」の教育プログラムとして実施されます。

公共圏における科学技術政策プログラムの科目



科学技術政策、あるいは、科学技術と関連する公共政策を形成するためには、科学技術についての理解と社会についての理解の両方を視野に入れる必要があります。
本プログラムの入口として「社会の中の科学技術概論」を、そして、学習のまとめとして「研究プロジェクト」（副専攻プログラムの履修者のみ受講可能）を用意しています。また、みなさんが、自分の専門分野の枠組みを超えて、俯瞰的・多角的に科学技術と社会の諸問題を洞察・理解できるようになるために、複数の分析アプローチを「学ぶ」ための科目群、そして、学んだ知識やスキルを「使う」ことを目指した科目群があります。
他大学の学生やゲストスピーカー（専門家や政策実務者など）との議論、市民参加型ワークショップの体験など、特色ある科目や活動を通して、あなたの能動的な学習をサポートします。



※副専攻プログラムの修了には、必修科目 6 単位、基軸科目から 2 単位以上、イシュー科目から 2 単位以上、合計で 14 単位以上の修得が必要です。この図では、必修科目を赤で、基軸科目を青で、イシュー科目を緑で表現しています。次のページ「本プログラムの学び方」にも説明があります。

本プログラムの学び方

副専攻プログラム

公共圏における科学技術の
あり方をしっかり学ぶ

副専攻プログラムに履修登録して学ぶことで以下のようなメリットがあります。

- ●現役行政官と共同で開催される政策ワークショップへの参加
- ●他大学の類似プログラム履修者との合宿への参加
  （科学技術イノベーション政策総合演習）
- ●少人数セミナーへの参加（研究プロジェクト）
- ●京大拠点の開講科目の単位認定
- ●プログラム修了認定証の授与

	必修科目	
科学技術の側から公共圏を考えたい		フューチャー・デザイン デザイン思考
公共圏の側から科学技術を考えたい		実践者から学ぶ科学技術コミュニケーション ファシリテーション入門
公共圏における科学技術をさまざまな視点から見たい	社会の中の科学技術概論 科学技術コミュニケーション演習（ディスカッション型授業） 研究プロジェクト	フィールド調査法特講 社会における科学技術特定演習

アラカルト

自分の関心に合わせて
ピンポイントで学ぶ

公共圏における科学技術政策について、自分の関心に合わせて、ピンポイントで学ぶこともできます。副専攻プログラムは履修できないけれど気になるという方は、試しにいくつかの授業を受講してみてください（ただし「研究プロジェクト」は副専攻プログラム履修者の、そして、「科学技術イノベーション政策総合演習」は副専攻 / 高度副プログラム履修者の専用科目のため受講できません）。気に入った方は、年度初めに副専攻プログラムに変更できます。

「公共圏における科学技術政策」プログラムは「副専攻プログラム」「高度副プログラム」として学ぶことも、「アラカルト」で自分の関心に合わせて学ぶこともできます（履修に関する詳細については、14 ページから 17 ページを参照）。
「副専攻プログラム」として、14 単位以上（必修科目：6 単位、選択科目：8 単位以上。選択科目 I（基軸科目群）および選択科目 II（イシュー科目群）から、それぞれ 2 単位以上を選択）を修得した場合には、プログラム修了認定証が授与されます。さらにインターンシップや政策ワークショップへの参加サポート、京大拠点で実施される該当科目の単位認定などのメリットがあります。
また、「副専攻プログラム」を修了した後の博士後期課程の学生を対象にした発展コース（副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策・研究プロジェクト＋」）も 2022 年度に新設しました。
「アラカルト」で履修した場合も、入門必須科目「社会の中の科学技術概論」を含む 8 単位以上を修得した場合、高度副プログラムの修了が認定されます。
下の図の空欄に気になる科目を当てはめていくと、あなただけの学び方が完成します。

必修科目

社会の中の科学技術概論 ＋ 科学技術コミュニケーション演習（ディスカッション型授業） ＋ 研究プロジェクト

選択科目

選択 1　選択 2　選択 3　選択 4

基軸科目（2 単位以上）

- システム思考
- ELSI入門：理論編
- ELSI入門：実践編
- 科学史・科学哲学入門
- 科学技術社会論入門
- 研究手法入門
- 科学技術社会論講義 II
- 科学技術思想史講義 II
- 科学技術社会論演習 II
- 科学技術思想史演習 II

主なイシュー科目（2 単位以上）

- ライフサイエンスの倫理と公共政策学
- 産業環境マネジメント論
- サステナブルシステムデザイン論
- ナノテクノロジー社会受容特論 B
- 総合演習（生命倫理と法）
- メディアリテラシー
- 特殊講義（開発と環境）
- 科学技術イノベーション政策総合演習（サマーキャンプ）

など

自由選択

高度副プログラム

必須科目「社会の中の科学技術概論」を含む 8 単位以上を修得した方は、高度副プログラムの修了が認定されます。また、他大学の類似プログラム履修者との合宿（科学技術イノベーション政策総合演習）への参加も可能です。

社会の中の科学技術概論 ＋ 選択 1　選択 2　選択 3

特色ある科目

多様な専門家から、科学技術イノベーション政策に関する広範な論点を学ぶ

社会の中の科学技術概論

科学技術がどのように発展し、どのように成果が利用されるか、どのようにして社会・人間にとって望ましい成果を生み出すかは、科学技術の研究開発や関連する政策における重要課題です。科学技術やイノベーションの「望ましさ」をどう実現したらよいか、そのためにはどのような問題を研究開発や政策形成において考えなくてはならないかを、科学技術の「倫理的・法的・社会的課題（Ethical, Legal and Social Issues: ELSI）」の観点から多角的に学ぶことができます。

副専攻／高度副プログラムの入口として設定されている科目で、春～夏学期の隔週水曜に 2 時限連続（5・6 限）で行われます。

学期の前半は、STiPS 教員による「社会の中の科学技術」についての講義を予定しています。学期の後半は、各回、科学技術に関する人文学的・社会科学的研究を専門とするゲスト講師による講義（90 分）と受講生同士の議論（90 分）を予定しています。

2023 年度は、特に「学問の独立性の社会的意義」をテーマにします。

文理を問わず様々な専門分野を学ぶ大学院生が受講しています

まだ「答え」の出ていない社会的な課題にチームで挑む

科学技術コミュニケーション演習

専門分野の違いによるコミュニケーションの困難さを実感し、異なる専門知識や背景を持つ者同士のコミュニケーション作法の獲得を目的としています。

夏に集中講義として開講している科目です。期間中、1 つのテーマにじっくりと向き合います。テーマは例年、下記にあるような科学技術に関する社会的課題を選び、異なる見解をもつゲスト講師と共に、多様な研究科の学生で構成されるチームで議論を行います。これらを通じて、専門分野ごとの視点の多様性を理解すること、自分とは異なる分野に対する謙虚さをもつこと、“素人” とされる人々の視点も理解すること、「社会の中の科学技術」という視点を理解することなどを目指しています。

過去に扱ったテーマ

「BSE 事件に伴って生じたアメリカ産牛肉輸入停止を解除するための条件とは何か」、「原子力発電所の再稼働に必要な条件について」、「地球温暖化問題に関する市民参加のあり方について」、「現在、想定されているゲノム編集作物の規制の枠組みの是非」、「新型コロナウイルス感染症をめぐる科学的助言のあり方について」など

チームでの議論を通じて、専門分野ごとの視点の多様性を理解できます

STiPS が提供する科目の中から、3 つの科目を詳しくご紹介します。副専攻プログラムで必修科目となっている「社会の中の科学技術概論」「科学技術コミュニケーション演習」「研究プロジェクト」をピックアップしています。

※写真は、2017～2020 年度のものを使用しています。

自身の専門性をベースとして社会課題を考える

研究プロジェクト

この科目は、副専攻プログラムの履修者のみを対象としています。自らの専攻分野を生かしつつ、副専攻プログラムを通じて学んだ、科学技術イノベーションの社会的・政策的な側面についての知識をさらに深めます。

具体的には、「政策のための科学」に関連した社会課題の解決に資する研究テーマを各自が設定して、人文学・社会科学的な手法を用いた調査および分析を行います。12 月には、京都大学と合同で、研究成果合同発表会も開催します。

授業は、受講生・担当教員が一堂に会して研究進捗報告や研究指導を行うゼミ形式のものと、各々の研究テーマや進捗に合わせて行う個別指導形式のものとを組み合わせて実施しています。

これまでの履修生が取り組んだ研究テーマ

「人工知能利用における受容態度と判断基準 ―若手研究者に対する探索的調査」、「マスメディアによる健康・医療情報に対する公衆衛生学専門家の認識」、「プラスチック資源循環の実現に向けた課題の検討 ―レジ袋有料化を事例として」など

2019 年に行われた研究成果合同発表会（大阪大学･京都大学の合同開催）

授業科目以外の学びの場

STiPS は、大学の知と社会の知をつなぐ「社学連携」の実践活動も行なっています。このような「授業科目以外の学びの場」もぜひ活用してください。

STiPS Handai 研究会

学内外の研究者や実務家をゲストにお招きする研究会を大阪大学内で開催しています。学生だけでなく教員も相互に学び合うことを目的としています。学生／教員を問わず、誰でも参加できます。

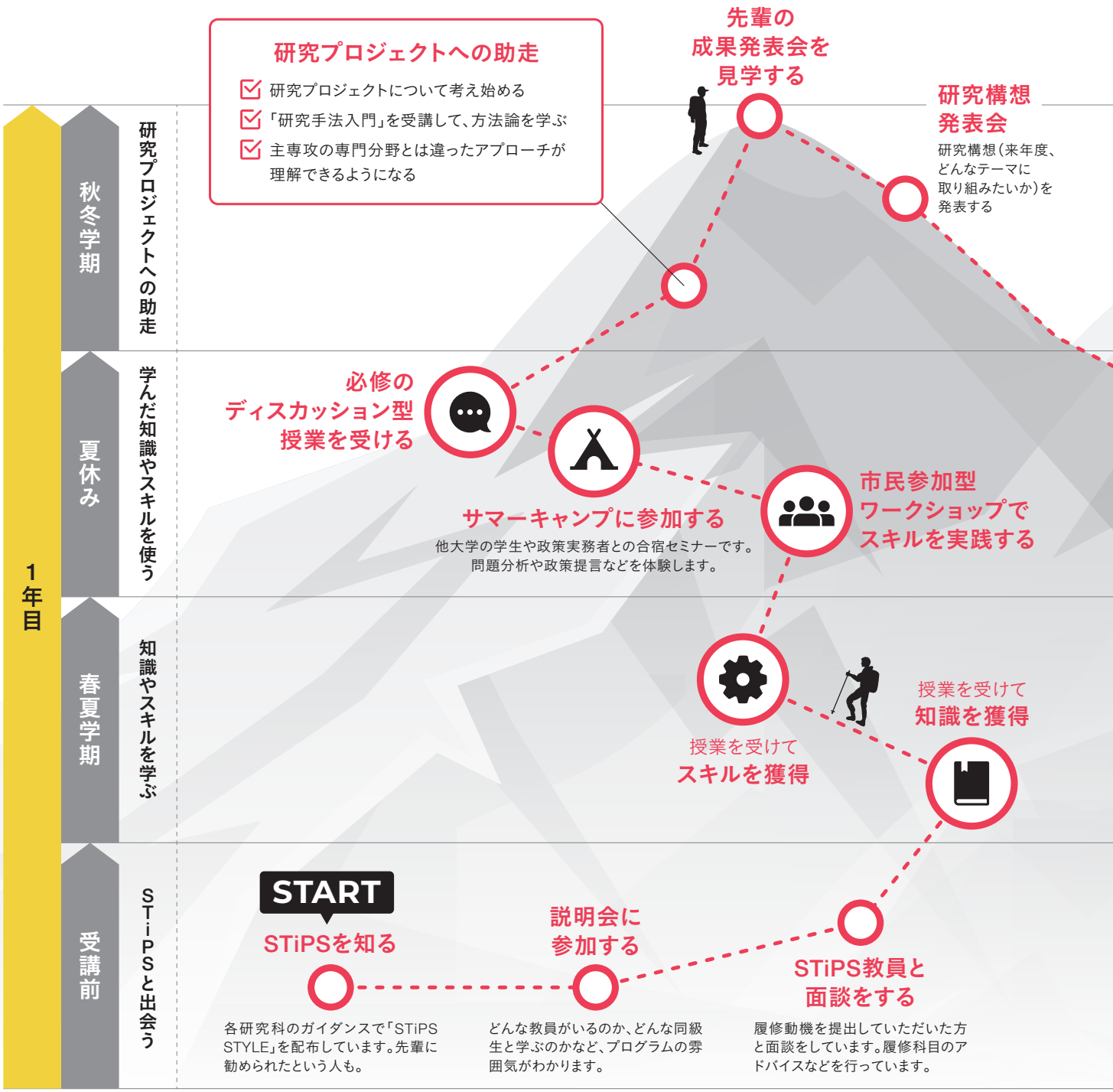
市民参加型ワークショップ

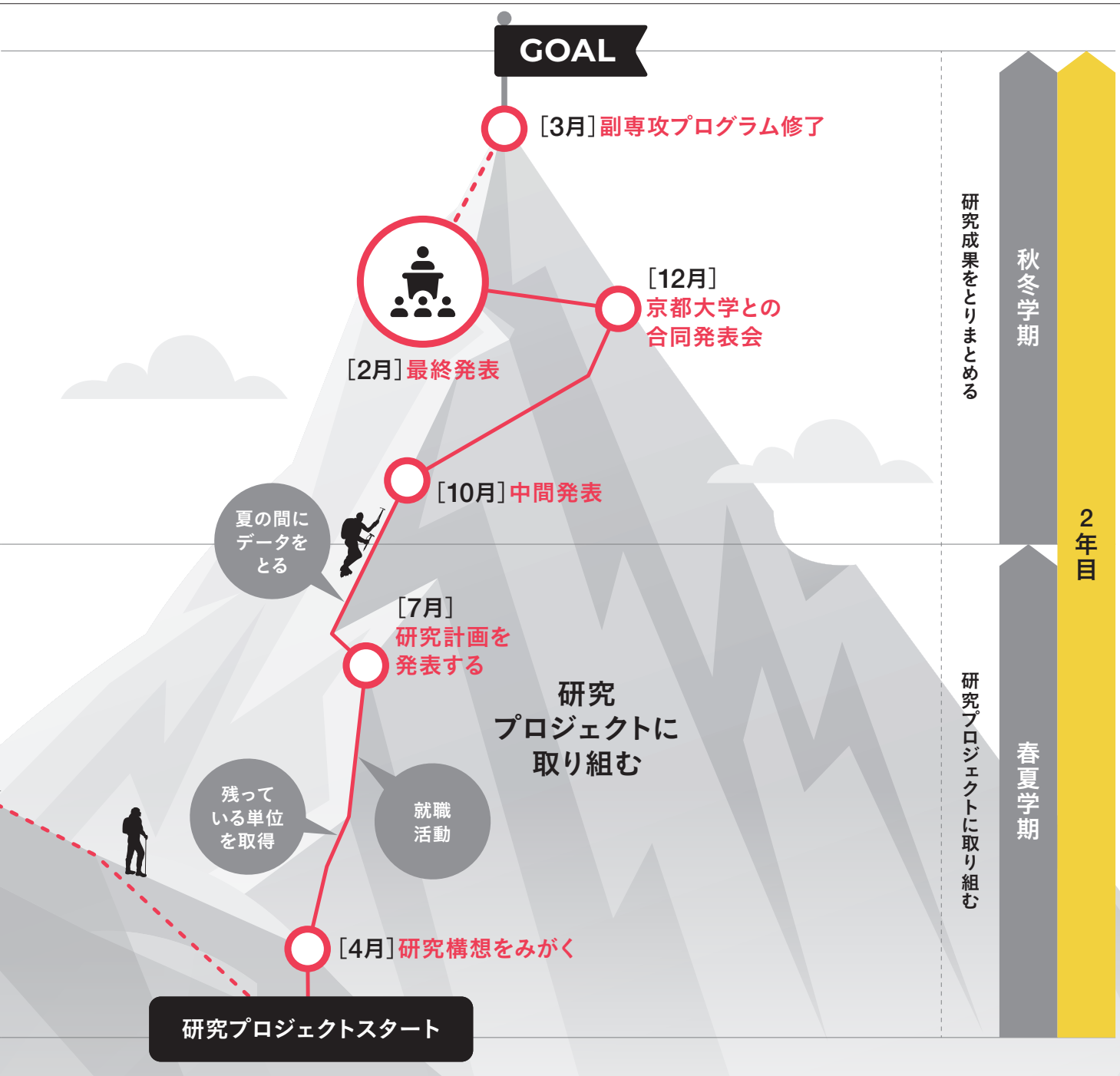
社会への導入に向けて研究・開発が進められている科学技術をテーマに、一般の人々が集まる対話の場づくりをしています。学生もグループファシリテーターとして参加し、参加者同士の対話をサポートします。

2020 年度以降は、新型コロナウイルスの感染拡大という状況を踏まえて、オンラインワークショップも開催しています。遠隔での参加が可能になったことで、STiPS 修了生からもグループファシリテーターとしての参加があり、現役生と修了生との交流の場にもなっていました。

履修モデルケース

「履修してみたいけど、研究スタイルやライフスタイルを考えると難しいかも」、
「自分のキャリアプランにあった学び方はあるのかな」とお悩みのあなた。
ここでは、副専攻プログラムを履修する際のモデルケースをご紹介しています。
STiPS と過ごす大学院生活を想像してみてください。
（あくまで一例を図式化したものです。実際には、この通りには進まないこともあります。）





※「研究プロジェクト」は、副専攻プログラム履修者のみを対象とする必須科目です。プログラムを通じて学んだ知識をさらに深めます。
※副専攻プログラムを修了した後の博士後期課程の学生を対象にした発展コース、副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策・研究プロジェクト＋」を2022 年度に新設しました。

学生インタビュー

多様な視点を得て、新たな視点を提供する経験ができました。

高橋 可恋さん （人文学研究科 外国学専攻 博士後期課程１年）

STiPS の授業「科学史･科学哲学入門」の 4,000 字のレポートは、私にとってなかなか大変なものでしたが、鍛えられました。私はいままで、一つのテーマについて自ら問いをたててこれほどの量の文章を書くという経験がほとんどありませんでしたが、授業をとおして自分の思考のプロセスをまとめる力がついたと思います。

私は、常々、自分自身の研究と社会が直接つながっているという感覚を持ちにくいと感じていました。一方、私個人としてはずっと社会と科学のつながりに関心があり、STiPS の「科学技術と社会をつなぐ」というコンセプトに興味を持ち、履修を決めたという経緯があります。実は今も、相変わらず自分の専門分野や研究テーマと社会との距離があるように感じてはいるのですが、ここまで STiPS で学んできたことを通して、私が個人として社会とつながる部分はたくさんある、と捉えるようになりました。私は今、将来教師という道に進むのもいいな、と考え始めています。自分が持っている科学的知識を深めながら、これからの未来を担う子どもたちにそれらを教えるというのは、社会と科学をつなぐ方法のうちの一つだと改めて感じています。

STiPSでの経験をとおして多様な現象や人をつなぐ面白さを実感できました。

坂部 拓実さん （情報科学研究科 情報数理学専攻 博士前期課程１年）

「公共圏における科学技術政策」に興味はあっても、「どんな人が集まってくるのだろう」、「だいぶ専門と違うけれど、ついていけるのかな」と不安を抱える人もいると思います。実際に STiPS の受講生は、どのような思いを抱いて受講をしたのでしょうか。また STiPS のプログラムについて、どのように感じたのでしょうか。ここでは 3 人の受講生の声を聴いてみましょう。

大学院に入学した当初、私のなかに「社会の中で自分の研究はどのように役に立つのか」という気持ちがありました。そんな時、STiPS の授業で接した理系の人が「一般の人にもっと科学に興味を持ってもらうにはどうしたらいいのか」と話してくれることがあり、私たち文学の人間が持っている悩みと近いと感じました。自分の研究が社会にどう役立つのかと考えることも、文系・理系関係なく、研究に取り組んでいる人に共通のことなのかもしれない、と考えるようになりました。

STiPS の授業で特に印象に残っているのは、「科学技術コミュニケーション演習」の顔認証技術についてのディスカッションです。私の専門は南米文学なので、その作品が書かれた国の政治状況について考える機会が多く、「独裁的な政治状況の国において、顔認証のような技術は、思想の取り締まりなど政治的悪用につながる可能性がある」と話しました。すると、グループのメンバーから「そういう視点もあるのか」という反応があったのです。文学が社会にどう役立つかという点において、このように新たな視点を提供するという役割もあるのだな、と実感した経験でした。

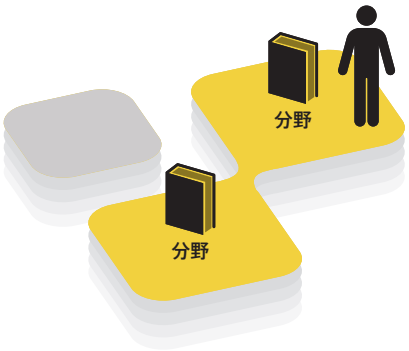
専門を活かし
自分と社会とのつながり方を
見つけることができました。

東 佑貴さん （理学研究科 宇宙地球科学専攻 博士前期課程 1 年）

「科学技術イノベーション政策総合演習（サマーキャンプ）」での「データの利活用における『同意』」というディスカッションのテーマは、非常に興味深いものでした。企業や行政が、どのようなデータを集めるのかということだけに注意を払うのでは不十分で、データを提供してくれる一人一人から同意をとる必要がある。個人情報に紐づいたデータを扱う難しさを改めて感じました。集めたデータを自由に扱うためには、さまざまな乗り越えるべきハードルがあることを今まで以上に意識するようになりました。

STiPS の授業では多様な人が参加しているのが面白いと思いました。研究室の人との議論は、概念や専門用語がある程度共有されていることが前提となりますが、異なる背景を持つ人と議論をすると、そんな考え方があるのだな、と感じることが多いです。自分とは根本的に異なる視点でものを見ている人がいることを体感できるのは貴重だと思います。今、組織のなかで異なる価値観のひとをつなぐ、という仕事に興味を持っているのですが、それは STiPS での経験に影響を受けた部分もあるのかもしれません。

プログラム修了生のキャリアパスの例

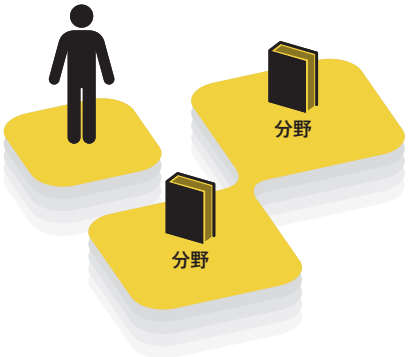


他分野とつながる研究者

分野を超えた協働がますます盛んになっています。そのような研究の変化に対応するため、科学技術政策はどうあるべきでしょうか。他の専門分野の学生や教員との双方向の議論を通じて、今後の研究に関する政策形成にも貢献できる研究者を育成します。

社会とつながる研究者

社会における科学技術の在り方が問われています。今後、科学技術と社会が調和していくために、どのような科学技術政策が必要でしょうか。企業、行政、市民など、多様なステークホルダーとの双方向の議論を通じて、社会と向き合いながら研究を担う研究者を育成します。同様に、社会の側に立ち、自らの専門性だけでなく、他分野の科学技術の専門家とつながりながら、公共的な問題に取り組む人材の育成も目指します。



分野と分野をつなげる人材

異なる分野間を「つなぐ」専門家が注目されています。研究プロジェクトの企画や進捗管理、関係法令等の精査、会計・財務・設備管理、特許申請等研究成果のまとめ・活用促進など、幅広い業務が含まれます。研究現場や社会を俯瞰し、次の一手を打つ人材を育成します。

社会と分野をつなげる人材

科学技術政策の形成において、社会の多様な主体の関与が求められています。異領域（研究者集団・政策・産業・市民社会）の間のコミュニケーションを媒介する実践的な人材や、科学技術と社会の関係、あるいは、科学技術政策そのものを研究する人材を育成します。また、それらの経験に基づき、実際に行政に携わる人材の育成も目指します。

副専攻／高度副プログラム

「公共圏における科学技術政策」について

副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」について

▽副専攻プログラムの趣旨

大阪大学では、平成23年度から大学院副専攻プログラム制度が始まりました。これは、所属する研究科（主専攻）と異なる視点、学際的な視点、俯瞰的な視点といった複眼的視野の涵養のため、教育目標に沿って、主専攻に準ずるまとまりのある高度な専門的素養又は幅広い分野の素養を培うための大学院生に特化したプログラムです。

プログラムに定める修了の要件を満たすことで、副専攻プログラム修了認定証が授与されます。

▽副専攻プログラムの概要

COデザインセンターは「公共圏における科学技術政策」という副専攻プログラムを提供しています。このプログラムは、「科学技術の倫理的・法的・社会的課題（ELSI）に関する研究を基盤として公共的関与の活動と分析を行い、学問諸分野間ならびに学問と政策・社会の間を「つなぐ」ことを通じて政策形成に寄与できる人材」の育成を目指します。自らの専門分野の枠組みを超えて、広く俯瞰的・多角的に科学技術と社会の諸問題・課題を洞察・理解し、かつ公共的関与の活動と分析を行えるような知識とセンス、実践的な能力を備えた人材を育成します。

「学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システムDouble-Wing Academic Architecture（DWAA）」において、「社会と知の統合」（社会課題の解決）に位置付けられます。

なお、本プログラムは、文部科学省の「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点」に選定された、大阪大学及び京都大学の連携による「公共圏における科学技術・教育研究拠点（STiPS）」の教育プログラムとして実施されます。

また、本プログラムでは、京都大学で実施される該当科目の履修により、単位を修得できるほか、STiPS以外の「科学技術イノベーション「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点」（政策研究大学院大学、東京大学、一橋大学、九州大学）との合同イベント等への参加支援を受けることができます。

▽副専攻プログラムの修了要件

本プログラム修了には、必修科目6単位および選択科目8単位以上の計14単位以上の修得が必要です。選択科目は、「基軸科目群」および「イシュー科目群」から、それぞれ2単位以上を履修して下さい。

本プログラムの修了に必要な単位と所属専攻の修了に必要な単位との重複が認められるかどうかは、研究科によって異なります。履修希望者は、事前に指導教員や所属研究科の大学院担当窓口に必ず相談して下さい。ただし、所属する専攻の修了に必要な最低修得単位数以外に、副専攻プログラムの場合は最低7単位を当該プログラムのためのみの単位として修得する必要があります。

▽副専攻プログラム科目について

詳細は本冊子p.18以降を参照して下さい。

開講場所や実施形式などの最新情報はKOAN等で確認して下さい。

▽特記事項

障がい等により、各科目の受講に際し特別な配慮を要する場合は、所属のまたは開講部局の教務関係窓口（教務係、大学院係など）に事前に相談するとともに、初回授業等、早期に授業担当教員に申し出て下さい。

▽副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」科目一覧

科目カテゴリー		開講部局（課程）	授業科目名	単位	学期	ページ
入門必修科目（2単位）		COデザインセンター（院）	社会の中の科学技術概論	2	春～夏	18
必修科目（2単位）		COデザインセンター（院）	科学技術コミュニケーション演習	2	集中（夏）	19
連携必修科目（2単位）		COデザインセンター（院）	研究プロジェクト	2	通年	20
選択科目：8単位以上（選択科目IおよびIIから、それぞれ2単位以上を履修）	選択科目I：基軸科目群	COデザインセンター（院）	倫理的・法的・社会的課題（ELSI）入門：理論編	1	夏	21
		COデザインセンター（院）	倫理的・法的・社会的課題（ELSI）入門：実践編	1	集中（秋）	22
		COデザインセンター（院）	研究手法入門	2	秋～冬	23
		COデザインセンター（院）	ファシリテーション入門	1	春	24
		COデザインセンター（院）	実践者から学ぶ科学技術コミュニケーション	1	冬	25
		COデザインセンター（院）	科学技術社会論入門	1	春	26
		COデザインセンター（院）	科学史・科学哲学入門	1	夏	27
		COデザインセンター（院）	科学技術と公共政策A	1	不開講	
		COデザインセンター（院）	科学技術と公共政策B	1	不開講	
		COデザインセンター（院）	科学技術と国際政治A	1	不開講	
		COデザインセンター（院）	科学技術と国際政治B	1	不開講	
		COデザインセンター（院）	システム思考	1	春	28
		COデザインセンター（院）	デザイン思考	1	春	29
		人文学研究科（博士前期）	科学技術社会論講義II（疑似科学を考える）	2	春～夏	30
		人文学研究科（博士前期）	科学技術思想史講義II（先端テクノロジーと倫理）	2	秋～冬	31
		人文学研究科（博士前期）	科学技術社会論演習II（科学技術社会論文献講読）	2	秋～冬	32
		人文学研究科（博士前期）	科学技術思想史演習II（科学技術社会論セミナー）	2	春～夏	33
		人間科学研究科（博士前期）	フィールド調査法特講	2	春～夏	34
		人間科学研究科（博士前期）	社会における科学技術特定演習	2	秋～冬	35
		工学研究科（博士前期）	フューチャー・デザイン	2	春～夏	36
	選択科目II：イシュー科目群	COデザインセンター（院）	科学技術イノベーション政策総合演習	2	集中（夏）	37
		COデザインセンター（院）	メディアリテラシー	2	集中（秋）	38
		COデザインセンター（院）	COデザイン講義（インターネット技術と法規制）	2	不開講	
		法学研究科（博士前期）	総合演習（生命倫理と法）	2	秋～冬	39
		法学研究科（博士後期）	特定研究（生命倫理と法）	2	秋～冬	39
		医学系研究科（修士課程）	ライフサイエンスの倫理と公共政策学	2	集中（夏）	40
		工学研究科（博士前期）	産業環境マネジメント論	2	春～夏	41
		工学研究科（博士前期）	サステナブルシステムデザイン論	2	春～夏	42
		基礎工学研究科（博士前期）（エマージングサイエンスデザインR³センター提供）	ナノテクノロジー社会受容特論A	2	不開講	
		基礎工学研究科（博士前期）（エマージングサイエンスデザインR³センター提供）	ナノテクノロジー社会受容特論B	2	集中(春～夏)	43
		国際公共政策研究科（博士前期）	特殊講義（開発と環境）	2	秋～冬	44
		国際公共政策研究科（博士後期）	特殊研究（開発と環境）	2	秋～冬	44

▽副専攻プログラムの履修申請

1. 履修希望者は、副専攻／高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」説明会に参加して下さい。
   説明会の開催日時、参加方法については、ウェブページ（http://stips.jp）をご確認下さい。
2. 履修希望者は、下記の期日までにメールにて「履修動機（様式指定）」を提出して下さい。「履修動機」の様式は、説明会などで配布します。また、COデザインセンターウェブサイト内の副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」のページより入手することもできます。（https://www.cscd.osaka-u.ac.jp/program/sub-stips.html）
   提出締切：4月19日（水）16:00
   提出先：stips-staff@cscd.osaka-u.ac.jp
3. 「履修動機」を受理した後、下記の候補日に面談を実施します。
   どちらの日も都合がつかない場合は、個別相談の上、面談日時を決定します。
   面談候補日：4月20日（木）、21日（金）両日午後（他は要相談）
   場所：【豊中】COデザインセンター（全学教育推進機構 全学教育総合棟I 4階）／【吹田】テクノアライアンスC棟6階
   （新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、Zoomなどを用いたオンラインでの面談とする可能性もあります。）

高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」について

▽高度副プログラムの趣旨

大阪大学では、平成20年度から大学院等高度副プログラム制度が始まりました。これは、大学院生および6年制課程の学部5、6年次を対象に、幅広い分野の知識と柔軟な思考能力を持つ人材など、社会において求められる人材の多様な要請に対応する取組として、教育目標に沿って、一定のまとまりを有する授業科目により構成され、体系的に履修することができるプログラムです。

これによって、所定の単位を修得した学生には高度副プログラム修了認定証が授与されます。

▽高度副プログラムの概要

COデザインセンターは「公共圏における科学技術政策」という高度副プログラムを提供しています。このプログラムは、「科学技術の倫理的・法的・社会的問題（ELSI）に関する研究を基盤として公共的関与の活動と分析を行い、学問諸分野間ならびに学問と政策・社会の間を「つなぐ」ことを通じて政策形成に寄与できる人材」の育成を目指します。自らの専門分野の枠組みを超えて、広く俯瞰的・多角的に科学技術と社会の諸問題・課題を洞察・理解し、かつ公共的関与の活動と分析を行えるような知識とセンス、実践的な能力を備えた人材を育成します。

「学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システムDouble-Wing Academic Architecture（DWAA）」において、「社会と知の統合」（社会課題の解決）に位置付けられます。

なお、本プログラムは、文部科学省の「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点」に選定された、大阪大学及び京都大学の連携による「公共圏における科学技術・教育研究拠点（STiPS）」の教育プログラムとして実施されます。

また、本プログラムでは、STiPS以外の「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点」（政策研究大学院大学、東京大学、一橋大学、九州大学）との合同イベント等への参加支援を受けることができます。

▽高度副プログラムの修了要件

本プログラム修了には、必修科目2単位および選択科目6単位以上の計8単位以上の修得が必要です。本プログラムの修了に必要な単位と所属専攻の修了に必要な単位との重複が認められるかどうかは、研究科によって異なります。履修希望者は、事前に指導教員や所属研究科の大学院担当窓口に必ず相談して下さい。ただし、所属する専攻の修了に必要な最低修得単位数以外に、高度副プログラムの場合は最低4単位を当該プログラムのためのみの単位として修得する必要があります。

▽高度副プログラム科目について

詳細は本冊子p.18以降を参照して下さい。

開講場所や実施形式などの最新情報はKOAN等で確認して下さい。

▽特記事項

障がい等により、各科目の受講に際し特別な配慮を要する場合は、所属のまたは開講部局の教務関係窓口（教務係、大学院係など）に事前に相談するとともに、初回授業等、早期に授業担当教員に申し出て下さい。

▽高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」科目一覧

科目カテゴリー	開講部局（課程）	授業科目名	単位	学期	ページ
必修科目（2単位）	COデザインセンター（院）	社会の中の科学技術概論	2	春～夏	18
選択科目：6単位以上	COデザインセンター（院）	科学技術コミュニケーション演習	2	集中（夏）	19
	COデザインセンター（院）	倫理的・法的・社会的課題（ELSI）入門：理論編	1	夏	21
	COデザインセンター（院）	倫理的・法的・社会的課題（ELSI）入門：実践編	1	集中（秋）	22
	COデザインセンター（院）	研究手法入門	2	秋～冬	23
	COデザインセンター（院）	ファシリテーション入門	1	春	24
	COデザインセンター（院）	実践者から学ぶ科学技術コミュニケーション	1	冬	25
	COデザインセンター（院）	科学技術社会論入門	1	春	26
	COデザインセンター（院）	科学史・科学哲学入門	1	夏	27
	COデザインセンター（院）	科学技術と公共政策A	1	不開講	
	COデザインセンター（院）	科学技術と公共政策B	1	不開講	
	COデザインセンター（院）	科学技術と国際政治A	1	不開講	
	COデザインセンター（院）	科学技術と国際政治B	1	不開講	
	COデザインセンター（院）	システム思考	1	春	28
	COデザインセンター（院）	デザイン思考	1	春	29
	人文学研究科（博士前期）	科学技術社会論講義II（疑似科学を考える）	2	春～夏	30
	人文学研究科（博士前期）	科学技術思想史講義II（先端テクノロジーと倫理）	2	秋～冬	31
	人文学研究科（博士前期）	科学技術社会論演習II（科学技術社会論文献講読）	2	秋～冬	32
	人文学研究科（博士前期）	科学技術思想史演習II（科学技術社会論セミナー）	2	春～夏	33
	人間科学研究科（博士前期）	フィールド調査法特講	2	春～夏	34
	人間科学研究科（博士前期）	社会における科学技術特定演習	2	秋～冬	35
	工学研究科（博士前期）	フューチャー・デザイン	2	春～夏	36
	COデザインセンター（院）	科学技術イノベーション政策総合演習	2	集中（夏）	37
	COデザインセンター（院）	メディアリテラシー	2	集中（秋）	38
	COデザインセンター（院）	COデザイン講義（インターネット技術と法規制）	2	不開講	
	法学研究科（博士前期）	総合演習（生命倫理と法）	2	秋～冬	39
	法学研究科（博士後期）	特定研究（生命倫理と法）	2	秋～冬	39
	医学系研究科（修士課程）	ライフサイエンスの倫理と公共政策学	2	集中（夏）	40
	工学研究科（博士前期）	産業環境マネジメント論	2	春～夏	41
	工学研究科（博士前期）	サステナブルシステムデザイン論	2	春～夏	42
	基礎工学研究科（博士前期）（エマージングサイエンスデザインR^{3}センター提供）	ナノテクノロジー社会受容特論A	2	不開講	
	基礎工学研究科（博士前期）（エマージングサイエンスデザインR^{3}センター提供）	ナノテクノロジー社会受容特論B	2	集中（春～夏）	43
	国際公共政策研究科（博士前期）	特殊講義（開発と環境）	2	秋～冬	44
	国際公共政策研究科（博士後期）	特殊研究（開発と環境）	2	秋～冬	44

▽高度副プログラムの履修申請

KOANの受講ガイダンス機能を利用して申請して下さい。

（https://koan.osaka-u.ac.jp/）

・受付期間：4月10日（月）15時～4月18日（火）13時

・KOAN掲示板も参照して下さい。

社会の中の科学技術概論

開講科目名	社会の中の科学技術概論
単位数	2単位　授業形態　講義科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Introduction to Science and Technology in Society
時間割コード	3B2509
定員	30人
担当教員	平川　秀幸、他
対象所属・年次	全研究科大学院生
開講区分･曜日･時間	春～夏学期　隔週水曜５・６限
開講場所／形態	豊中キャンパス：全学教育推進機構ステューデント・コモンズ２階セミナー室Ａ （新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、Zoomなどを用いたオンラインでの開講とする可能性がある。）
キーワード	科学技術イノベーション、科学技術政策、倫理的・法的・社会的課題（ELSI）
授業の目的・概要	人工知能やロボット、ゲノム編集など、現代社会において科学技術は大きな恩恵をもたらすことが期待される一方で、人の健康や環境に対するリスクや、さまざまな倫理的・法的・社会的課題（Ethical, Legal and Social Issues: ELSI）に対する懸念も広がっている。社会の中で科学技術はどのような役割を果たし、どのような問題を惹起しているのか、人間・社会にとって望ましい成果を生み出すにはどうしたらよいのか、研究者や政策決定者、事業者、市民にはどのような責任や役割があるのか。これらの問いについて本科目では、科学技術に関する人文学的・社会科学的研究を専門とする講師陣による講義や討論を通じて多角的に学ぶ。2023年度は、後半（第６・７回以降）では、とくに「学問の独立性の社会的意義」をテーマとする。
学習目標	現代社会における科学技術にはどのような役割と課題があり、人間・社会にとって望ましい科学技術をどのように実現したらよいかについて、次の観点から洞察し、説明できるようになる。 ・科学技術と社会の相互作用 ・科学技術コミュニケーション ・科学技術政策 ・科学技術の倫理的・法的・社会的課題（Ethical, Legal and Social Issues: ELSI） ・学問の独立性の社会的意義 ・政策決定と科学的助言
授業計画	第１・２回（4月12日）　ガイダンス/社会の中の科学技術の課題概観 第３回（4月26日）　科学技術と社会・政策のこれから 第４・５回（5月10日）　科学技術コミュニケーション/科学技術と公共政策 第６・７回（5月24日）　学問の独立性の問題（アカデミーの歴史）に関する講義と討論 第８・９回（5月31日）　学問の独立性の問題（日本学術会議改革問題）に関する講義と討論 第10・11回（6月21日）　事例１　コロナ専門家会議に関する講義と討論 第12・13回（7月5日）　事例２　デュアルユースに関する講義と討論 第14・15回（7月12日）　総合討論 （注：各回で取り上げるテーマは変更する可能性がある。）
授業外における学習	各回の授業後に、復習を兼ねた短いレポートを作成し、提出する。
履修条件・受講条件	特になし。
教科書・教材	特に指定しない。
参考文献	講義において適宜、指定する。
成績評価	各回の授業で課すミニレポート（50%）、最終レポート（50%）
特記事項	本科目は、副専攻/高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」における必修科目である。詳細は本冊子p.2-5を参照のこと。 定員を超える履修希望者がいる場合には、受講人数の調整を行う。履修希望者は、初回の授業に必ず出席すること。初回の授業に出席できない場合は、授業開始日の前日までに、担当教員まで（stips-staff@cscd.osaka-u.ac.jp）メールで連絡すること。

科学技術コミュニケーション演習

開講科目名	科学技術コミュニケーション演習
単位数	2単位　授業形態　演習科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Science, Technology and Communication Seminar
時間割コード	3B2504
定員	20人
担当教員	八木　絵香、水町　衣里、鹿野　祐介
対象所属・年次	全研究科大学院生
開講区分・曜日・時間	集中（夏）　9月27日、28日、29日
開講場所／形態	豊中キャンパス：総合棟I 3階341（COデザインスタジオ）を予定 （新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、Zoomなどを用いたメディア授業として開講する可能性がある。）
キーワード	パブリックアクセプタンス、異分野間コミュニケーション、科学技術の社会的責任
授業の目的・概要	近年では再生医療をはじめとする生命技術や遺伝子組換え技術、地球温暖化問題やエネルギー政策など多種多様な科学技術をめぐる課題において、科学技術と社会の関係が問題視されるケースが増えている。これに対しては、国内では説明会の実施やわかりやすいパンフレットの作成等のいわゆるPA（Public Acceptance）活動が行われてきたが、その有効性が限定的であり、「科学技術と社会の新たな関係構築」が必要であることが強く認識されつつある。 本演習では、研究の細分化により生じている専門家間のコミュニケーションの困難さを実感すると同時に、異なる専門知識や背景を持つ人々とのコミュニケーションの作法を獲得することを目的とする。 加えて近年においては、新しい科学技術を社会に導入する際に生じうる倫理的・法的・社会的課題（Ethical, Legal and Social Issues: ELSI）への対応が必要とされるようになってきている。大阪大学では2020年4月に、これらの諸課題についての教育・研究を行う組織として社会技術共創研究センター（通称ELSIセンター）を設置している。本年度の演習では、ELSIセンターが学外の企業や組織と共に取り組むプロジェクトとも連動し、実際の「科学技術と社会の新たな関係構築」についての課題をテーマとして取り扱う予定である。
学習目標	異なる研究科の学生による具体的な科学技術的テーマをめぐる相互討論を行い、それらを通じて、課題となる科学技術と社会のかかわりについて理解することを目標とする。 その上で、自らの専門性をふまえた、主張および応答ができるようになることを目指す。
授業計画	8月中、もしくは、9月中旬には、ガイダンスと事前課題（1つ目の問い）の提示を行う。 その上で、以下の日程で集中講義を行う。 9月27日（水）1限～5限 ・講義：科学技術コミュニケーションとはなにか ・講義：テーマとなる科学技術についてのレクチャー（外部講師による） （現地視察を行う可能性もある。） ・事前課題を踏まえたグループ討議（1） 9月28日（木）1限～5限 ・事前課題を踏まえたグループ討議（2） ・全体討議 ・テーマとなる科学技術についての専門家（外部講師）との討議 ・2つ目の問いの提示と、それに基づくグループ討議（1） 9月29日（金）1限～5限 ・2つ目の問いに関するグループ討議（2） ・発表と全体討議
授業外における学習	ガイダンス時に、今年度のテーマについてのレクチャーを行う。そこで課される課題について、自らの見解をとりまとめた上で、グループ討議に臨む。 また、授業時間内でのグループ討議の時間は限られるため、授業時間外でのメンバー間の作業・討議時間の確保が望まれる。
履修条件・受講条件	特になし。 科学技術についての専門知識は必須ではない。人文社会科学系の学生の履修も歓迎する。
教科書・教材	特になし。
参考文献	小林傳司『トランス・サイエンスの時代』（NTT出版、2007年）。その他は授業時に適宜紹介する。
成績評価	グループワークへの貢献度、および授業中に課す中間レポートおよび最終レポートにより評価する。
特記事項	定員を超える履修希望者がいる場合には、受講人数の調整を行う。授業初日の1ヶ月前をめどに、履修登録をしている学生宛に、詳細についてのメールを送信予定。不明な点がある場合には、担当教員まで（stips-staff@cscd.osaka-u.ac.jp）メールで連絡すること。

研究プロジェクト

開講科目名	研究プロジェクト
単位数	2単位　授業形態　演習科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Research Project
時間割コード	3B2704
定員	10人
担当教員	平川　秀幸、他
対象所属・年次	全研究科大学院生（副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」の履修者のみを対象）
開講区分･曜日･時間	通年　月1回　水曜5・6限
開講場所／形態	メディア授業（Zoomなどを用いたオンラインでの開講）
キーワード	政策のための科学、倫理的・法的・社会的課題（ELSI）、科学技術コミュニケーション、研究方法論
授業の目的・概要	副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」における学習の総括として、それまでに同副専攻プログラムを通じて学んだ、科学技術イノベーションの社会的・政策的な側面についての知識をさらに深め、定着させることを目的とし、通年の研究プロジェクトを実施する。具体的には、「政策のための科学」に関連した社会課題への解決に資する研究テーマを各自が設定し、人文学・社会科学的な手法を用いた調査および分析を行う。研究の成果は、12月に行われる研究成果合同発表会（大阪大学・京都大学の合同開催）の場において、また、2月に行われる最終発表会において口頭発表を行う。授業は、履修者・担当教員が一堂に会して研究進捗報告や研究指導を行うゼミ形式のものと、各々の研究テーマや進捗に合わせて行う個別指導形式のものとを組み合わせて実施する。
学習目標	1）「政策のための科学」に関連した社会課題を特定することができる。 2）1で特定した社会課題の解決に資する、人文学・社会科学的な手法を用いた研究プロジェクトを設計・計画することができる。 3）2の計画に沿って、研究を実施することができる。 4）3で得られた成果を、発表資料を用いて口頭発表することができる。
授業計画	第1回（4月19日）　ガイダンス 第2・3回（5月17日）　研究構想発表（取り組む研究テーマの設定） 第4・5回（6月14日）　研究計画発表（研究全体の計画） 第6・7回（7月19日）　研究計画発表会（調査活動の具体的な計画） 第8・9回（10月11日）　中間発表会（調査・分析活動の成果） 第10・11回（11月8日）　研究成果合同発表会に向けた発表練習 第12・13回（12月2日）　研究成果合同発表会（大阪大学・京都大学の合同開催） 第14・15回（2月上旬）　最終発表会
授業外における学習	各自の研究プロジェクトを実施する上で必要な文献・情報収集、発表資料作成、調査・分析といった種々の活動に対し、年間を通じて一定程度の時間・労力を費やすことが必要となる。履修者は、主専攻における研究活動等との両立を念頭に、主専攻の指導教員および本科目の担当教員と良く相談しながら、計画的に本科目に取り組むことが強く求められる。
履修条件・受講条件	本科目は、副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」の履修者のみを対象とする必修科目であり、原則として同副専攻プログラムの初年度での履修は認めない。ただし、修了（卒業）年度の関係から同副専攻プログラムの初年度での履修が必要となる場合は、例外的に履修を認める場合もあるので、担当教員と相談のこと。
教科書・教材	特になし。
参考文献	「政策のための科学」に関連した人文学・社会科学的手法を用いた文献については、授業時に適宜紹介・配布するが、関係の深い学術論文誌として『科学技術社会論研究』や『科学技術コミュニケーション』、『研究技術 計画』等を図書館・ウェブサイト等で随時参照すること。
成績評価	研究成果合同発表会、最終発表会での発表（必須）に加え、各回の授業での課題提出・報告を加味して総合的に判断する。
特記事項	

倫理的・法的・社会的課題（ELSI）入門：理論編

開講科目名	倫理的・法的・社会的課題（ELSI）入門：理論編
単位数	1単位　授業形態　講義科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Introduction to Ethical, Legal and Social Issues on Science and Technology: theoretical skills
時間割コード	3B2804
定員	50人
担当教員	八木　絵香、水町　衣里、鹿野　祐介、他
対象所属・年次	全研究科大学院生
開講区分･曜日･時間	夏学期　火曜４限
開講場所／形態	メディア授業（Zoomなどを用いたオンラインでの開講） （受講方法の詳細は履修登録者に個別に連絡する）
キーワード	倫理的・法的・社会的課題（ELSI）、科学技術コミュニケーション、テクノロジーアセスメント
授業の目的・概要	本科目では、文理の垣根を越えた学際的な思考法や俯瞰的な視点を涵養するため、新規科学技術がもたらす倫理的・法的・社会的課題（ELSI）の問題枠組みを概観し、科学技術の各分野におけるELSI事例へのケーススタディを通して、ELSI対応の全体像を俯瞰する。 具体的には、各分野でELSI研究に携わるゲスト講師を招き、新規科学技術がもたらすELSIとその検討手法、対応策について講義を行う。
学習目標	本科目を通して、以下の能力・技能を獲得することを目標とする。 ・ELSIの問題枠組（フレーミング）についての理解 ・自らの専門性を超えた学際的かつ俯瞰的な視野 ・各分野のELSIへのアプローチに関する知識と応用的思考力
授業計画	第１回　ガイダンス、レクチャー 「ELSI」とは ELSIのE（科学技術の倫理的課題） 第２回　レクチャー ELSIのL（科学技術の法的課題） ELSIのS（科学技術の社会的課題） 第３回　ケーススタディ（AI・ロボット） 第４回　ケーススタディ（医療） 第５回　ケーススタディ（食品） 第６回　ケーススタディ（環境エネルギー） 第７回　ケーススタディ（データ利活用） 第８回　振り返りと総合討論 （注：第３～７回で取り上げるテーマは変更する可能がある。）
授業外における学習	
履修条件・受講条件	「倫理的･法的･社会的課題（ELSI）入門：実践編」の受講には、本科目（「倫理的･法的･社会的課題（ELSI）入門：理論編」）の履修が前提となる。「実践編」の受講を希望する場合は、必ず本科目を履修すること。 科学技術についての専門知識は必須ではない。社会のなかの科学技術に関する諸課題への挑戦や文理の垣根を越えた学際的な協働に関心のある学生、人文社会科学系の学生も歓迎する。
教科書・教材	特になし。
参考文献	藤垣裕子･小林傳司･塚原修一･平田光司･中島秀人 編『科学技術社会論の挑戦』全３巻（東京大学出版会）、標葉隆馬『責任ある科学技術ガバナンス概論』（ナカニシヤ出版、2020） その他、講義時に適宜紹介する。
成績評価	毎回の授業で課すコメントシート（60%）、最終レポート（40%）
特記事項	

倫理的・法的・社会的課題（ELSI）入門：実践編

開講科目名	倫理的・法的・社会的課題（ELSI）入門：実践編
単位数	1単位　授業形態　演習科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Introduction to Ethical, Legal and Social Issues on Science and Technology: practical skills
時間割コード	3B2805
定員	20人
担当教員	八木　絵香、水町　衣里、鹿野　祐介、他
対象所属・年次	全研究科大学院生
開講区分･曜日･時間	集中（秋）　実施日はKOAN等で確認すること。
開講場所／形態	吹田キャンパス：産学共創本部C棟2階 セミナー室1を予定 （新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、Zoomなどを用いたメディア授業として開講する可能性がある。）
キーワード	倫理的・法的・社会的課題（ELSI）、科学技術コミュニケーション、テクノロジーアセスメント、専門家と市民、パブリックアクセプタンス、異分野間コミュニケーション
授業の目的・概要	本科目では、文理の垣根を越えた学際的な思考法や俯瞰的な視点を涵養するため、特定の新規科学技術の社会実装とそれによってもたらされる倫理的・法的・社会的課題（ELSI）をテーマとして、学生間の相互討論形式でELSI論点の抽出と対応策の検討を行う。 具体的には、学生間グループワークを通して、科学技術が社会にもたらしうるELSIを多様な視点から抽出し、対応策（制度設計や政策提言）を検討する。その際、ELSIについての教育・研究を行う組織として、2020年4月に大阪大学に設置された社会技術共創研究センター（通称ELSIセンター）が学外の企業や組織と共に取り組むプロジェクトとも連動し、実際の「科学技術と社会の新たな関係構築」についての課題をテーマとして取り扱う予定である。
学習目標	本科目を通して、以下の能力・技能を獲得することを目標とする。 ・ELSIの問題枠組（フレーミング）についての実践的理解と応用力 ・学際的な協働の姿勢と俯瞰的な視野
授業計画	以下の日程で集中講義を行う。 1日目1限～5限 ・講義：「ELSIを捉えて、抽出する」 ・講義：テーマとなる科学技術についてのレクチャー（外部講師による） ・グループ討議（1）：ELSI論点の抽出 2日目1限～3限 ・中間発表・全体討議・レビュー ・グループ討議（2）：ELSI対応策の提案 ・発表と全体討議
授業外における学習	授業時間内でのグループ討議の時間は限られるため、授業時間外でのメンバー間の作業・討議時間の確保が望まれる。
履修条件・受講条件	本科目（「倫理的・法的・社会的課題（ELSI）入門：実践編」）の受講には、「倫理的・法的・社会的課題（ELSI）入門：理論編」の履修が前提となる。 「実践編」の受講を希望する場合は、夏学期に開講される「理論編」を必ず履修すること。科学技術についての専門知識は必須ではない。社会のなかの科学技術に関する諸課題への挑戦や文理の垣根を越えた学際的な協働に関心のある学生、人文社会科学系の学生も歓迎する。
教科書・教材	特になし。
参考文献	小林傳司『トランス・サイエンスの時代』（NTT出版、2007年）、藤垣裕子・小林傳司・塚原修一・平田光司・中島秀人 編『科学技術社会論の挑戦』全3巻（東京大学出版会） その他は授業時に適宜紹介する。
成績評価	グループワークへの貢献度（50%）、および最終レポート（50%）により評価する。
特記事項	定員を超える履修希望者がいる場合には、受講人数の調整を行う。授業初日の1ヶ月前をめどに、履修登録をしている学生宛に、詳細についてのメールを送信予定。不明な点がある場合には、担当教員まで（stips-staff@cscd.osaka-u.ac.jp）メールで連絡すること。

研究手法入門

開講科目名	研究手法入門
単位数	2単位　授業形態　演習科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Introduction to Research Methods
時間割コード	3B1526
定員	15人
担当教員	平川　秀幸、他
対象所属・年次	全研究科大学院学生、全学部生
開講区分･曜日･時間	秋～冬学期　隔週水曜５・６限
開講場所／形態	豊中キャンパス：全学教育推進機構ステューデント・コモンズ２階セミナー室Ａ （新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、Zoomなどを用いたオンラインでの開講とする可能性がある。）
キーワード	研究方法論、資料分析、アンケート、インタビュー、定量テキスト分析
授業の目的・概要	副専攻/高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」の一環として本科目では、人文学・社会科学の研究手法を用いて、どのように科学技術に関わる現代の社会的課題についての問い（リサーチクエスチョン）を設定し、研究・調査を行い、その成果を論文としてまとめたらよいかについて学ぶ。具体的には、人文学・社会科学の代表的な研究手法として、資料分析、アンケート、インタビュー、定量テキスト分析などを取り上げ、それぞれの研究手法の概要について講義で学ぶとともに、各研究手法を用いた研究計画の立案の手法を、グループワークを通じて身につける。本科目は、副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」の履修生にとっては、同プログラムの必修科目「研究プロジェクト」に向けた導入・準備のための科目として位置付けられる。
学習目標	科学技術に関わる現代の社会的課題について、受講生各自の専門とは異なるアプローチでの研究計画を立てられるようになる。
授業計画	第１回（10月４日）　ガイダンス 第２・３回（10月18日）　「資料分析」という手法 第４・５回（10月25日）　「定量テキスト分析」という手法 第６・７回（11月１日）　「アンケート」という手法 第８・９回（11月15日）　「インタビュー」という手法 第10・11回（11月22日）　「実践」という手法 第12・13回（12月６日）　社会科学の認識論 第14・15回（12月20日）　研究計画書作成に向けたグループワーク （注：第２～11回で取り上げるテーマは変更する可能性がある。）
授業外における学習	各回の講義内容を復習するとともに、講義で紹介する関連文献を読む。
履修条件・受講条件	特になし。 副専攻/高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」の履修生でなくても履修可。
教科書・教材	特になし。
参考文献	講義時に適宜紹介する。
成績評価	授業内活動への参加や毎回の授業で課すコメントシート（60%）、最終レポート（40%）
特記事項	定員を超える履修希望者がいる場合には、受講人数の調整を行う。履修希望者は、初回の授業に必ず出席すること。初回の授業に出席できない場合は、授業開始日の前日までに、担当教員まで（stips-staff@cscd.osaka-u.ac.jp）メールで連絡すること。

ファシリテーション入門

開講科目名	ファシリテーション入門
単位数	1単位　授業形態　演習科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Introduction to Dialogue Facilitation
時間割コード	3B1112
定員	20人
担当教員	八木　絵香、水町　衣里
対象所属・年次	全研究科大学院生、全学部生
開講区分･曜日･時間	春学期　火曜４限
開講場所／形態	豊中キャンパス：全学教育推進機構 ステューデント・コモンズ２階セミナー室Ａ （新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、Zoomなどを用いたオンラインでの開講とする可能性がある。）
キーワード	科学技術コミュニケーション、専門家と市民、ファシリテーション、対話、パブリックエンゲージメント
授業の目的・概要	現代社会におけるさまざまな社会課題の発見と解決を目指し、実践するための基礎的な力（汎用力）の一つである「ファシリテーションスキル」を学ぶ。 演習の題材は、自動運転、再生医療、宇宙政策など科学技術と社会のあいだでコミュニケーションが必要とされる社会課題を想定している。専門知識を必要とするテーマについて、意見や関心が異なる人々のコミュニケーションを円滑に進めるためのスキルについて学び、その基礎素養を身につけることが本科目の目的である。
学習目標	科学技術コミュニケーションをめぐる問題を解決するために必要な基礎素養の一つであるファシリテーションスキルについて学ぶ。 その上で、科学技術コミュニケーションの基本的な素養（異なる専門をもつ者同士のコミュニケーションの難しさや、問題の捉え方の違い等）を身につけることが本科目の目標である。
授業計画	第１回　イントロダクション、ファシリテーションの基礎に関する講義 第２回　「伝わらない」を体験するミニワーク 第３回　ファシリテーションスキル演習① 第４回　ファシリテーションスキル演習② 第５回　ファシリテーション実践① 第６回　ファシリテーション実践② 第７回　ファシリテーション実践の振り返り 第８回　総合討論 ・第１回と第２回では、簡単なミニワークと座学をまじえながら、ファシリテーションの基礎について学ぶ。 ・第３～７回では、実際にファシリテーションスキルを学ぶための演習に加え、獲得したスキルを実践場面で使うための実習を行う。実習のテーマは、AIや再生医療、宇宙政策など、科学技術と社会をめぐる諸課題から指定する。課題についての直接的な知識は必要ない。 ・第８回には、全体を振り返り、総合討論を行う。
授業外における学習	COデザインセンターが企画するイベント（市民参加型ワークショップやサイエンスカフェなど）に、ファシリテーターの補佐役として参加する機会を設ける。これらのイベントへ積極的に参加することにより、授業を通じて獲得したスキルをより向上させることが可能になる。
履修条件・受講条件	特になし。 科学技術についての専門知識は必須ではない。人文社会科学系の学生の履修も歓迎する。
教科書・教材	特になし。
参考文献	講義時に適宜紹介する。
成績評価	毎回の授業で課すコメントシート（50%）、最終レポート（50%）
特記事項	定員を超える履修希望者がいる場合には、受講人数の調整を行う。履修希望者は、初回の授業に必ず出席すること。初回の授業に出席できない場合は、授業開始日の前日までに、担当教員まで（stips-staff@cscd.osaka-u.ac.jp）メールで連絡すること。

実践者から学ぶ科学技術コミュニケーション

開講科目名	実践者から学ぶ科学技術コミュニケーション
単位数	1単位　授業形態　講義科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Learning from the Field of Practice, Science Communication
時間割コード	3B1801
定員	50人
担当教員	八木　絵香、水町　衣里、他
対象所属・年次	全研究科大学院生、全学部生
開講区分･曜日･時間	冬学期　火曜４限
開講場所／形態	メディア授業（Zoomなどを用いたオンラインでの開講）
キーワード	科学技術コミュニケーション、専門家と市民、アウトリーチ、対話、パブリックエンゲージメント
授業の目的・概要	本科目は、将来的に専門知と社会をつなぐ仕事をしたいと考える学生を念頭に置き、実務経験者によるゲストレクチャーを含む、参加者同士のディスカッションを中心に進行する。 具体的には、科学技術コミュニケーションとよばれる分野の第一線で活躍するゲスト講師（実践的研究者、デザイナー、ファシリテーター、ジャーナリスト、政策担当者、弁護士、弁理士、シンクタンク研究者等）を招き、それぞれがどのようにキャリアを形成してきたのか、特に専門知と社会をつなぐためにどのような仕事をしているのか、について話を伺う。 その上で、受講者それぞれの関心に引きつけて、キャリアイメージを形成することが本授業の目的である。
学習目標	自らの専門性に引き付けた上で、専門知と社会をつなぐ仕事に関心のある学生が、具体的なキャリアイメージを獲得し、記述できるようになることが本科目の学習目標である。
授業計画	第１回　イントロダクション 第２～６回　様々な実践現場で「専門知」と「社会」をつなぐ仕事をしている方をゲスト講師として招き、実践現場での工夫や苦労、そこに至るまでのキャリアパスについて、話題提供をいただき、参加者全員で議論する。 具体的には下記のような実践者をゲスト講師として招聘する予定。 ・研究機関に所属するサイエンスコミュニケーター ・学校教育現場で科学コミュニケーションに関わる教員 ・報道機関関係者、ジャーナリスト ・政策実務者 ・科学コミュニケーションに関してフリーランスやNPO/NGOセクターで活躍されている方　等 第７回　振り返りと総合討論 途中で中間課題を課し、提出内容をもとに、添削指導を行う（授業0.5回分相当）
授業外における学習	受講者の関心に応じて、ゲスト講師以外の実践者や実践の場を紹介する。それらを積極的に活用することにより、具体的かつ専門性にあったキャリアイメージの形成が可能となる。
履修条件・受講条件	特になし。 科学技術についての専門知識は必須ではない。人文社会科学系の学生の履修も歓迎する。
教科書・教材	特になし。
参考文献	講義時に適宜紹介する。
成績評価	毎回の授業で課すコメントシート（40%）、中間課題（30%）、最終レポート（30%）
特記事項	

科学技術社会論入門

開講科目名	科学技術社会論入門
単位数	1単位　授業形態　講義科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Introduction to Science, Technology and Society（STS）
時間割コード	3B1704
定員	50人
担当教員	平川　秀幸
対象所属・年次	全研究科大学院生、全学部生
開講区分･曜日･時間	春学期　木曜４限
開講場所／形態	ZoomとDiscordを併用したメディア授業として開講（アクセス情報はCLEにて告知する）
キーワード	科学知識の社会学、社会構成主義、共生成、リスク、レギュラトリーサイエンス、科学技術の倫理的･法的･社会的問題（ELSI）、フレーミング、アクターネットワーク理論、科学的助言、科学技術と民主主義、テクノロジーアセスメント
授業の目的・概要	情報通信技術や生命科学をはじめとして、科学技術は現代社会に広く深く浸透し、その発展によって社会の成り立ちや私たちの暮らしも大きく変容しつつある。そこには、個人や社会にとって新しい可能性が開かれるとともに、事故等のリスクや倫理的問題が生じるおそれもある。そうした複雑な現代社会における科学技術のあり方、社会との関わり方をどのように読み解くのか。誰がどのように科学技術と社会の未来をかたちづくるのか。これらの問いに応えられるようになるために、この授業では、科学技術と社会の相互作用に関する人文･社会科学の学際的研究分野である「科学技術社会論」の基礎となる理論や概念、問題事例について学ぶ。
学習目標	以下のことについて洞察し説明できるようになることによって、総体として、理系の学生は、自分たちの研究の意味を社会の側から見つめ、他者に説明できるようになり、文系の学生は、人文学・社会科学が対象とする現代の人間や社会が、科学技術によってどのように変わっていくのか、どうあるべきなのかを考えることができるようになる。 ・社会（政治、経済、文化・価値規範など）が科学知識や技術の形成にどのように影響するか、逆に科学技術の発展や利用が社会にどのように影響し、どのような問題が生じるか。 ・安全基準などリスクの政策はどのように形成されるか。 ・科学技術をめぐる論争において、どんな倫理的・法的・社会的な問題（ELSI）があるか。 ・科学技術や関連する政策に一般の市民はどのように関わっていけるか。 ・科学技術が社会や人間にとって、より望ましく発展するためにはどのようにしたらいいか。
授業計画	第１回 イントロダクション：科学技術社会論の基本テーマの概観 第２回 科学技術社会論の基本概念（1） 第３回 科学技術社会論の基本概念（2） 第４回 科学技術論争をどう見るか（1） 第５回 科学技術論争をどう見るか（2） 第６回〈リスク〉をどう伝えるか？ 第７回 科学技術と社会の未来を誰がどのように舵取りするのか 第８回 社会に応える研究とイノベーションへ
授業外における学習	理工系の学生は、自らの専門分野が、社会とどのように関わりをもっているかを調べてみること。人文学・社会科学系の学生は、身近に利用している科学技術について、どのような倫理的、法的、社会的な問題が生じ得るかを調べてみること。また適宜、授業外学習用オンデマンド動画を視聴すること。
履修条件・受講条件	特になし。
教科書・教材	毎回の講義で資料を配布する。
参考文献	藤垣裕子編『科学技術社会論の技法』（東京大学出版会、2005年）、平川秀幸『科学は誰のものか―社会の側から問い直す』（NHK出版、2010年）、Sergio Sismondo. An Introduction to Science and Technology Studies（2nd edition）, Wiley-Blackwell. その他、授業で適宜紹介。
成績評価	毎回の講義終了後のDiscordへのコメント（40%）、最終レポート（60%）
特記事項	

科学史・科学哲学入門

開講科目名	科学史・科学哲学入門
単位数	1単位　授業形態　講義科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Introduction to History and Philosophy of Science
時間割コード	3B1703
定員	50人
担当教員	平川　秀幸
対象所属・年次	全研究科大学院生、全学部生
開講区分･曜日･時間	夏学期　木曜４限
開講場所／形態	ZoomとDiscordを併用したメディア授業として開講（アクセス情報はCLEにて告知する）
キーワード	科学革命、科学の制度化、認識論、懐疑主義、論理実証主義、新科学哲学、社会構成主義
授業の目的・概要	現代社会で大きな役割と影響力をもっている科学技術は、どのような歴史を経てここまで発展してきたのかを、同時代の社会状況との関わりとともに概観する。それとともに、歴史的事例も参照しながら、「人はどのようにして物事を正しく知ることができるのか」「正しいことを知っていると正当化できるのか」「科学知識はどのように発展するのか」など科学哲学の基本的問題についても基本概念や理論について理解する。
学習目標	近現代の科学技術史と20世紀中葉以降の科学哲学の基本に関する講義を通じて、以下の事項について説明できるようになる。 ・17世紀以降の西洋近代科学の歴史の概略について ・20世紀の世界および日本の科学技術と社会の歴史について ・知識の「客観性」「パラダイム」など20世紀の科学哲学の基本概念について
授業計画	第1回　ガイダンス：本科目で扱う科学技術の歴史および科学哲学・科学論の基本的問いとは何かについて概略を紹介し、本講義の狙いや構成について説明する。科学史に関する授業の要所要所で、関連する科学哲学の概念について説明していく。 第2回　西洋近代科学の誕生（1） 第3回　西洋近代科学の誕生（2） 第4回　18-19世紀における自然科学の成立と制度化 第5回　20世紀中葉から現代までの科学技術と社会 第6回　科学哲学の基本問題（1）：20世紀の科学哲学の基本主題 第7回　科学哲学の基本問題（2）：20世紀の科学哲学～論理実証主義から新科学哲学まで 第8回　科学哲学の基本問題（3）：実在論と社会構成主義の対立を超えて
授業外における学習	16世紀から19世紀までの西洋史、20世紀の現代史における社会と科学技術との関わりについて調べてみること。科学哲学が、科学技術の歴史上の経験を通じて何を問題とし、どのように議論したのかについて調べてみること。また適宜、授業外学習用オンデマンド動画を視聴すること。
履修条件・受講条件	特になし。
教科書・教材	毎回の講義で資料を配布する。
参考文献	古川安『科学の社会史』（筑摩書房、2018年）、佐藤靖『科学技術の現代史』（中央公論新社、2019年）、中島秀人『社会の中の科学』（放送大学教育振興会、2008年）、S･シェイピン『科学革命とは何だったのか』（白水社、1998年）、野家啓一『科学哲学への招待』（筑摩書房、2015年）。その他、授業で適宜紹介。
成績評価	毎回の講義終了後のDiscordへのコメント（40%）、最終レポート（60%）
特記事項	

システム思考

開講科目名	システム思考
単位数	1単位　授業形態　演習科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	System Thinking
時間割コード	3B2506
定員	20人
担当教員	山﨑　吾郎、小川　歩人
対象所属・年次	全研究科大学院生
開講区分･曜日･時間	春学期　金曜
開講場所／形態	吹田キャンパス：産学共創本部C棟2階 セミナー室1
キーワード	システム、ティッピング・ポイント、レバレッジ・ポイント、ループ図
授業の目的・概要	複雑な問題を解くにあたって効果的な介入ポイントを探索するためには、対象をある水準で抽象化しつつ、要素とそれらの間のつながりや相互関係を把握した上で、全体の特性に働きかける変化を創り出すことが求められる。この授業では、対象の構造とその動的特性を具体的に描き出すためのシステムモデリングの基本を学ぶ。複雑・不確実な状況下において、大局・全体像・根本を見るためのものの見方・思考法であるシステム思考について、演習を通じて基本的な理解を獲得する。
学習目標	望ましい変化を創り出す力を身につけるため、 ・具体的な問題事例について、見えないものを含めた全体像を描けるようになる ・複雑な問題における介入ポイントを把握できる（問題のツボを見抜ける）ようになる ・効果的な解決策、戦略を策定できるようになる ・ループ図を使って問題認識を共有するためのコミュニケーションを推進できるようになる 以上を通じて、システムという考え方とそれに基盤を置く各種のツールを様々な場面で活用できるようになる。
授業計画	授業は、講義、グループワーク（演習）、プレゼンテーションから構成され、以下のスケジュールで行う。 第1回（4月14日 2限）導入 第2回（4月14日 3限）演習1：ループ図の描き方 第3回（4月21日 3限）演習2：複雑なループ図を描く 第4回（4月21日 4限）演習3：メタループの理解 第5回（4月28日 3限）システムへの働きかけ：問題のツボを見抜き、戦略を立てる 第6回（5月12日 4限）応用課題とその検討1 第7回（5月26日 3限）応用課題とその検討2 第8回（5月26日 4限）応用課題とその検討3+振り返り
授業外における学習	最終レポート課題を課す。最終レポート課題では、具体的な問題事例を対象に、グループごとに講義で説明した分析手法を用いて、複雑な問題にみられる「要素のつながり」を的確に把握し、効果的な解決策および戦略を策定する。詳細は第8回目の授業時に通知する。
履修条件・受講条件	特になし。
教科書・教材	必要に応じて授業内で配布する。
参考文献	ドネラ・H・メドウズ（著）、枝廣淳子（翻訳）、小田理一郎（翻訳）『世界はシステムで動く―いま起きていることの本質をつかむ考え方』（英治出版、2015年）
成績評価	グループワークへの貢献で40点、最終レポート課題で60点分の評価を行う。成績は、上記2つの合計点による絶対評価である。
特記事項	

デザイン思考

開講科目名	デザイン思考
単位数	1単位　授業形態　演習科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Design Thinking
時間割コード	3B2519
定員	20人程度
担当教員	大谷　洋介、高田　佳奈
対象所属・年次	全研究科大学院生
開講区分･曜日･時間	春学期　金曜
開講場所／形態	吹田キャンパス：産学共創本部C棟2階 セミナー室1
キーワード	デザイン思考、社会課題、ビジネスツール、プロジェクトマネジメント
授業の目的・概要	前例のない課題や未知の問題に対して最適な解決を図るための思考法のひとつとして「デザイン思考」がある。ここでの「デザイン」は単に製品の外観を整える行為を指すのではなく、より良い状態を目指して行動方針を考える営為全体を指す。SDGs（持続可能な開発目標）を含む多くの社会的課題には絶対の正解がなく、そもそも何が問題であるのか定義することすら難しい。こうした「やっかいな問題（wicked problem）」に対し、より良い状態を目指して多様な立場の人々が協働するためのツールとしてデザイン思考は機能する。 本授業では異なる専門性を持つ受講生がチームを形成し、デザイン思考のプロセス<①共感→②問題定義→③アイデアの創造→④プロトタイピング→⑤テスト>を体験する。また外部企業から講師を招聘し実社会における活用事例について知見を得る。 本授業を通じてデザイン思考の事例、特徴とその有効性などを理解するとともに、チームによる課題への取り組みを通して、ツールのひとつとしてデザイン思考を習得し、プロジェクト実施の際に利用可能になることを目指す。
学習目標	学習目標① デザイン思考の手法を説明し、実践することができる。 学習目標② 異なる専門性を有する学生が、円滑なコミュニケーションのもと、プロジェクトを進行できる。 学習目標③ チームビルディング・目標設定・プロジェクト全体像の把握等、円滑なプロジェクト進行に必要な手順を実践できる。
授業計画	本授業は座学、チームによる共同作業と発表により構成される。デザイン思考への知識を深めるとともに身近な課題を題材として各ステップの実践を行う。 第1回（4月14日 4限）アイスブレイク、デザイン思考の特徴と意義 第2回（4月21日 5限）実社会におけるデザイン思考の実践 （ゲスト講師：（株）HAKUHODO DESIGN代表 永井一史氏） 第3回（4月28日 4限）デザイン思考の試行的実践 第4回（5月12日 5限）ステップ①：共感 ・共感マッピング 第5回（5月19日 4限）ステップ②：問題定義 ・インサイトと問題のリフレミーング 第6回（5月26日 5限）ステップ③：アイデア創出 ・アイデアの創出と可視化 第7回（6月2日 4限）ステップ④：プロトタイピング ・プロトタイプの作成、紹介 第8回（6月9日 4限）ステップ⑤：プロトタイピング・検証テスト ・実装イメージの確認 ふりかえり
授業外における学習	発表準備等
履修条件・受講条件	特になし。
教科書・教材	特に指定しない。
参考文献	特になし。
成績評価	授業中のワークにおける貢献（学習目標①、②、③）40% ミニレポート1回（学習目標①）20% プレゼンテーション（学習目標②、③）40%
特記事項	本授業科目を含む博士課程教育リーディングプログラム「超域イノベーション博士課程プログラム」の授業科目は学生参加型授業を基本としており、授業方法は多種多様です。 したがって、障がい等により本授業科目の履修に際し特別な配慮を要する場合は、超域イノベーション博士課程プログラム事務室（教務担当）に事前に相談するとともに、初回授業等、早期に授業担当教員に申し出てください。

科学技術社会論講義II（疑似科学を考える）

開講科目名	科学技術社会論講義II（疑似科学を考える）
単位数	2単位　授業形態　講義科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Studies in Science, Technology and Society L. II
時間割コード	458102
定員	10人程度
担当教員	中村　征樹、江口　太郎
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	春～夏学期　火曜4限
開講場所／形態	教室はKOAN等で確認すること。 （新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、Zoomなどを用いたオンラインでの開講とする可能性がある。）
キーワード	科学哲学、科学論、科学技術社会論、疑似科学、ポストトゥルース
授業の目的・概要	現代社会において科学知や科学技術の担う役割はますます大きくなっている。他方で、コロナワクチンをめぐる陰謀論にもみられるように、フェイクニュースやオルタナティブファクトと呼ばれる言説が広がっているのも現代である。そのような言説に対して、「非科学的」というレッテルを貼れば問題は片付くのだろうか。疑似科学をめぐって科学哲学・科学論の分野で展開されてきた議論を踏まえると、事態はそれほど簡単なものではない。 科学哲学・科学論の領域では、科学と非科学の「線引き」をめぐって、これまで多くの議論が蓄積されてきた。また、一見、「非科学的」とも見える言説の背後にあるものから目を背け、「科学的」か「非科学的」かという観点からのみ問題を捉えることは、問題の解決を遠ざけることにもなりかねない。 本授業では、疑似科学をテーマに科学哲学者によって書かれたテキストを通して、「疑似科学」を通して「科学的」であるとはどういうことかについて、科学哲学・科学論の分野でどのように考えられるのかについて、理解を深める。また、ポストトゥルースと呼ばれる現代において、「疑似科学」をめぐる問題についてどのように考えていけばよいのかについて、多面的に考える。
学習目標	科学という営みの特性や、科学と非科学の「線引き」をめぐって、科学哲学・科学論などの分野を中心にこれまでなされてきた主要な議論について理解を深める。 現代において、「疑似科学」をめぐる問題についてどのように考えていけばよいのかについて考えられるようになる。
授業計画	本授業では、科学という営みについて、疑似科学（とみなされているもの）と正統的科学（とみなされているもの）との比較や、「ポストトゥルース」をめぐる事例などを参照しながら、科学哲学・科学史・科学論などの分野を中心にこれまでなされてきた主要な議論について紹介し、文系・理系の枠を超えて議論・検討する。授業は文系・理系の教員が共同して実施し、両者が話題提供を行う。また、グループでのディスカッションや全体討論を重視する。 以下の順序で授業を展開する。ただし、下記の項目はあくまで予定であり、状況に応じて変更することもありうる。 第1回：疑似科学と正統的科学：科学の「線引き」をめぐって 第2回：コロナワクチンをめぐる「噂」について考える 第3回：進化論を否定する人々について考える（1） 第4回：進化論を否定する人々について考える（2） 第5回：占星術と天文学について考える（1） 第6回：占星術と天文学について考える（2） 第7回：超能力研究について考える（1） 第8回：超能力研究について考える（2） 第9回：代替医療について考える（1） 第10回：代替医療について考える（2） 第11回：なぜ人は疑似科学を信じるのか（1） 第12回：なぜ人は疑似科学を信じるのか（2） 第13回：再度、コロナワクチンをめぐる「噂」について考える 第14回：ポストトゥルースの時代における科学について考える（1） 第15回：ポストトゥルースの時代における科学について考える（2）
授業外における学習	授業への参加にあたって教科書の指定する箇所や配付資料を事前に読んでくることが求められる。授業は、教科書・配付資料を事前に読んできていることを前提に進める。
履修条件・受講条件	
教科書・教材	伊勢田哲治『疑似科学と科学の哲学』（名古屋大学出版会、2003年）
参考文献	ハイジ・J・ラーソン『ワクチンの噂：どう広まり、なぜいつまでも消えないのか』（みすず書房、2021年）、リー・マッキンタイア『ポストトゥルース』（人文書院、2020年）
成績評価	毎回、授業内容についてコメントを提出してもらうほか、適宜、課題を提出してもらい平常点とします。そのほかに期末レポートを行い、それらを総合して評価します。平常点（50%）、期末レポート（50%）
特記事項	

科学技術思想史講義II（先端テクノロジーと倫理）

開講科目名	科学技術思想史講義II（先端テクノロジーと倫理）
単位数	2単位　授業形態　講義科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	History of Ideas in Science and Technology L. II
時間割コード	458104
定員	10人程度
担当教員	中村　征樹
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	秋～冬学期　水曜3限
開講場所／形態	教室はKOAN等で確認すること。 （新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、Zoomなどを用いたオンラインでの開講とする可能性がある。）
キーワード	科学技術社会論、科学技術と社会、科学技術倫理
授業の目的・概要	科学技術の進展により私たちの生活はより便利で快適なものとなったが、もう一方であらたな問題がもたらされている。たとえば顔認証技術の普及は、利便性だけでなく、プライバシーをめぐって新たな状況を引き起こしている。テクノロジーによって、民主主義社会の基盤である自由や平等が脅威にさらされているという懸念は、かならずしも杞憂とはいえない。 本講義では、情報技術をはじめとする先端テクノロジーが、個人のプライバシーや自由、平等にどのような懸念を与えうるのか、どのような課題があるのか、テクノロジーをどのように活用することが望ましいのかについて、近年のさまざまな事例をとりあげながら検討する。そのことをとおして、テクノロジーを将来にむけて実りある形で活用するにはどうすればよいのかを考えたい。
学習目標	先端テクノロジーをめぐる現状や今後について、具体的に理解する。 先端テクノロジーがもたらす/もたらしうる問題について、多面的に理解できるようになる。 民主主義社会においてテクノロジーを有効に活用する方策について、自分の意見を明確に述べられるようになる。
授業計画	下記はあくまで予定であり、状況に応じて一部変更することがある。 第1回：ガイダンス 第2回：効率性を向上することについて考える/教科書1章 第3回：ハッカーとベンチャー・キャピタル（1）/教科書2章 第4回：ハッカーとベンチャー・キャピタル（2）/教科書2章 第5回：破壊的イノベーションと民主主義の関係について考える（1）/教科書3章 第6回：破壊的イノベーションと民主主義の関係について考える（2）/教科書3章 第7回：アルゴリズムによる意思決定について考える（1）/教科書4章 第8回：アルゴリズムによる意思決定について考える（2）/教科書4章 第9回：情報時代におけるプライバシーについて考える（1）/教科書5章 第10回：情報時代におけるプライバシーについて考える（2）/教科書5章 第11回：スマートマシンについて考える/教科書6章 第12回：インターネットと言論の自由について考える（1）/教科書7章 第13回：インターネットと言論の自由について考える（2）/教科書7章 第14回：民主主義について考える/教科書8章 第15回：まとめと全体討論
授業外における学習	授業への参加にあたって教科書の指定する箇所を事前に読んでくることが求められる。授業は、教科書を事前に読んできていることを前提に進める。
履修条件・受講条件	
教科書・教材	ロブ・ライヒ、メラン・サハミ、ジェレミー・M・ワインスタイン『システム・エラー社会』（NHK出版、2022年）
参考文献	
成績評価	毎回、授業前に教科書の当該箇所についてコメントを提出してもらうほか、授業終了時にも当日の授業を踏まえてコメントを提出してもらう。そのほか、適宜、課題を提出する場合がある。以上を踏まえて平常点とする。そのほか期末レポートを行い、それらを勘案して評価する。 平常点（50%）、期末レポート（50%）
特記事項	

科学技術社会論演習 II （科学技術社会論文献講読）

開講科目名	科学技術社会論演習 II （科学技術社会論文献講読）
単位数	2単位　授業形態　演習科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Studies in Science, Technology and Society S. II
時間割コード	458106
定員	10人程度
担当教員	中村　征樹
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	秋～冬学期　火曜3限
開講場所／形態	教室はKOAN等で確認すること。 （新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、Zoomなどを用いたオンラインでの開講とする可能性がある。）
キーワード	科学論、科学技術社会論、科学技術と社会
授業の目的・概要	現代社会において科学技術の担う役割はますます大きくなっている。新型コロナウイルス感染症の事例をとってみても、科学技術は大きな恩恵をもたらすとともに、私たちに多くの課題を突き付けている。科学技術をどのようにとらえればよいのかについて、基本的な考え方を身に着けることは、理系文系を問わず不可欠な素養だといえるだろう。科学技術の特性をとらえようとしてきたのが、科学技術社会論という研究分野である。本授業では、科学技術社会論の代表的な学術誌である『Social Studies of Science』『Science, Technology, and Human Value』『Public Understanding of Science』などに掲載されている論文の読解をとおして、科学技術社会論の基本的な概念や考え方について理解を深め、科学技術をめぐる問題についてどのように考えることができるかについて多様なアプローチを知る。さらに、論文読解を通して、科学技術社会論の分野でどのように研究テーマを設定し、研究計画を立てればいいかについて考えられるようになることをめざす。
学習目標	英文で書かれた学術的文章を的確に読解することができる。 科学技術をとりまく現代的課題について論じられるようになる。 科学技術社会論の基本的な考え方について理解を深める。
授業計画	英語で書かれたテキストを読み進めていく。毎回、学生によるテキストの内容についての発表およびディスカッションを行う。なお、初回授業時に、講読論文の候補リストを配布するが、各自の関心にあわせてそれ以外の論文を紹介することも可能とする。 第1回　ガイダンス、スケジュール調整 第2回～14回　テキストについて学生による発表とディスカッション 第15回　総合討論
授業外における学習	担当者は事前にレジュメを作成すること。 担当回以外も、テキスト該当箇所について各自で事前に読んでくること。 授業は内容の確認、論点の整理、ディスカッションというかたちで進める。
履修条件・受講条件	
教科書・教材	
参考文献	日比野愛子・鈴木舞・福島真人編『ワードマップ科学技術社会学（STS）―テクノサイエンス時代を航行するために』（新潮社、2021年）、塚原東吾ほか編著『よくわかる現代科学技術史・STS』（ミネルヴァ書房、2022年）、藤垣裕子責任編集『科学技術社会論の挑戦1 科学技術社会論とは何か』（東京大学出版会、2020年）、藤垣裕子責任編集『科学技術社会論の挑戦2 科学技術と社会―具体的課題群』（東京大学出版会、2020年）、藤垣裕子責任編集『科学技術社会論の挑戦3「つなぐ」「こえる」「動く」の方法論』（東京大学出版会、2020年）、松本三和夫編『科学社会学』（東京大学出版会、2021年）、標葉隆馬『責任ある科学技術ガバナンス概論』（ナカニシヤ出版、2020年）
成績評価	授業への参加態度（30%）、発表（40%）、レポート（30%）
特記事項	

科学技術思想史演習II（科学技術社会論セミナー）

開講科目名	科学技術思想史演習II（科学技術社会論セミナー）
単位数	2単位　授業形態　演習科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	History of Ideas in Science and Technology S. II
時間割コード	458108
定員	10人程度
担当教員	平川　秀幸
対象所属・年次	全研究科大学院生（博士前期課程1、2年生）
開講区分･曜日･時間	春～夏学期　水曜3限
開講場所／形態	春学期開始時にKOANで告知する。 （新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、Zoomなどを用いたオンラインでの開講とする可能性がある。）
キーワード	科学技術社会論、科学技術政策、リスクガバナンス、リスクコミュニケーション、科学的助言
授業の目的・概要	科学技術社会論における重要な諸問題について理解を深めるために、指定した文献（書籍、論文）の輪読（文献内容の報告と討論）を行う。文献の担当者は、担当箇所の発表レジュメ（文献内容の概略・要約）を事前に作成し、他の受講者にML等で送付する。他の受講生はその発表レジュメと文献の該当箇所を事前に読んだ上で授業に臨む。当日は担当者が発表レジュメに基づいて該当箇所の簡単な報告を行った後、全員で討論する。2023年度は、食品、原子力、環境、感染症等の分野におけるリスク問題に関する政策決定とコミュニケーション、ならびにそれらにおける科学的助言の役割を共通テーマとする。
学習目標	科学技術と社会における重要な諸問題の主要な論点について、科学技術社会論の理論的観点からの理解に基づき、他者に説明し、自分の評価と意見をもって議論することができる。
授業計画	毎回、担当の受講生による文献の概要紹介と討論を行う。 第1回　ガイダンス、指定文献の提示、発表担当者の決定とスケジュール調整 第2回～15回の各回　受講生による文献紹介と討論
授業外における学習	各回の発表担当者は、文献紹介のための準備として、授業3日前までに発表レジュメを作成し、ML等で他の受講生に送付すること。担当になっていない者は、担当者による発表レジュメと文献の該当箇所に事前に目をとおした上で授業に臨むこと。
履修条件・受講条件	特になし。
教科書・教材	第1回の授業で指定する。
参考文献	なし
成績評価	授業での発表（80%）、討論への参加状況（20%）
特記事項	受講生の要望を踏まえ、オンライン、ないしハイフレックス（対面とオンラインの組み合わせ）により実施する。

フィールド調査法特講（フィールド調査法の基礎）

開講科目名	フィールド調査法特講（フィールド調査法の基礎）
単位数	2単位　授業形態　講義科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Methods in Fieldwork
時間割コード	211546
定員	設定せず
担当教員	森田　敦郎、他
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	春～夏学期　木曜1・2限 （木曜日の1・2限に不定期開講する）
開講場所/形態	吹田キャンパス：人間科学研究科 51講義室
キーワード	
授業の目的・概要	フィールド調査法の基礎、とくにインタビューと観察の技法を、講義、講読と実習を通して学ぶ。
学習目標	フィールド調査法の基礎を理解する。インタビューと観察の方法を身につける。これらに基づいて、自らの研究テーマに関する調査計画を立てることができるようになる。
授業計画	第1回　オリエンテーション 1限：授業の狙い、班分け、オンラインツールの使い方 動画鑑賞：エスノグラフィの実例を動画で学ぶ 2限：グループワークの発表 グループワークと発表：動画の比較課題を完成させてから発表 第2回　フィールド調査とは何か 1限：社会調査概論（フリック『質的研究入門』2章） 2限：エスノグラフィ概論と倫理（スプラッドリー『参加観察法入門』1章、2章（主に2-3節）、3章） 第3回　観察 1限：社会状況の定義（スプラッドリー『参加観察法入門』第二部ステップ1） 2限：観察と記録（スプラッドリー『参加観察法入門』第二部ステップ2、3、4） 第4回　フィールドノート 1限：フィールドノート（エマーソン他『方法としてのフィールドノート』第1章） 2限：インタビュー入門（フリック『質的研究法入門』13章、16章） 第5回　インタビュー 1限：ライフストーリー・インタビュー（フリック『質的研究法入門』14章） 2限：エスノグラフィックなインタビュー（Spradley, The Ethnographic Interview 2章、3章、第二部ステップ2（日本語翻訳）） 第6回　リサーチ・クエッション 1限：清書版フィールドノートの比較 課題①をもとにグループワーク・発表 2限：リサーチ・クエッション（ブース他『リサーチの技法』3章、4章） 第7回　先行研究と概念 1限：インタビューノートの比較 課題②をもとにグループワーク・発表 2限：フィールド調査と概念、先行研究（講義） 第8回　調査計画の検討 1限：調査計画の比較 課題③をもとにグループワーク（グループメンバー同士で比較） 2限：発表
授業外における学習	実習に関連する課題を行ってくること。課題図書を事前に読み、質問を提出すること。
履修条件・受講条件	フィールド調査に基づいて修士論文を書く計画を持つ大学院生
教科書・教材	「授業計画」を参照。
参考文献	「授業計画」を参照。
成績評価	授業への参加と質問の提出（30%）、宿題（20%）、実習課題（30%）、最終レポート（20%）
特記事項	

社会における科学技術特定演習

開講科目名	社会における科学技術特定演習
単位数	2単位　授業形態　演習科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Science and Technology in their social contexts
時間割コード	211686
定員	10人程度
担当教員	山中　浩司
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	秋～冬学期　月曜5限
開講場所/形態	吹田キャンパス：人間科学研究科 本館46講義室
キーワード	技術社会学、アクターネットワーク、技術慣性、情報技術、職業の未来
授業の目的・概要	技術が社会に出て行く状況、影響、問題などについて、技術社会学の学習と事例研究を通して理解を深める。今年度は、主として情報技術と社会との関係を取り上げ、その問題を考える。
学習目標	技術社会学の基礎的理解を得る。技術が社会から受ける影響、社会に及ぼす影響の両面についての知識と理解を情報技術を事例として理解する。
授業計画	前半は、必要な知識を担当教官から提供し、議論を中心に進める。後半は、参加者による事例検討を中心とする。 Part 1. 技術社会学の議論と理論 1）技術決定論と社会構築主義 2）アクターネットワーク論 3）システムアプローチ 4）大学と産業 5）科学と特許問題 Part 2. 情報技術と社会 6）情報技術と労働（悲観予想と楽観予想） 7）情報技術と技能・格差（自動化と情報化、SBTCをめぐる議論） 8）情報技術と職業（職業の未来） 9）事例検討 10）事例検討 11）事例検討 12）事例検討 13）事例検討 14）事例検討 15）ディスカッション
授業外における学習	レクチャーについては関連文献に目を通すことが望ましい。多くが英語文献であるため英語力がある程度必要。後半の演習については、参加者の興味に応じてトピックを選択し、さまざまな視角から事例検討を試みる。
履修条件・受講条件	科学や技術と社会との関係についての関心。
教科書・教材	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	各セッションへの出席、発言、報告書の提出を総合的に評価する。
特記事項	

フューチャー・デザイン

開講科目名	フューチャー・デザイン
単位数	2単位　授業形態　講義科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Future Design
時間割コード	281554
定員	50人程度
担当教員	原　圭史郎、倉敷　哲生、上須　道徳
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	春～夏学期　木曜3限
開講場所/形態	吹田キャンパス：工学研究科M3棟212
キーワード	フューチャー・デザイン、将来世代、持続可能社会、社会システム・社会の仕組み
授業の目的・概要	気候変動や資源エネルギー問題、政府債務問題やインフラの維持管理など、社会の持続可能性（サステイナビリティ）を脅かすこれらの課題は、世代をまたぐ長期的課題でもある。しかし、現代のニーズを満たすためには有効ではあるものの、将来世代の利益を反映できない「市場」や「民主制」などといった現代の社会システムの下では、将来世代に配慮した意思決定を導くことが困難であり、これら長期的課題にうまく対処できない。将来世代に持続可能社会を引継ぐにはどのような「社会の仕組み」をデザインすればよいのだろうか？将来世代にも配慮した意思決定や行動を生み出し、持続可能な環境と社会を将来世代に引き継ぐための様々な「社会の仕組み」のデザインと実践がフューチャー・デザインである。現在、様々な専門分野の研究者や、市民、自治体関係者、産業界などのステークホルダー参加の下でフューチャー・デザインの実践が始まっている。そして、フューチャー・デザインの応用分野は、資源エネルギー問題、カーボンニュートラル、まちづくり、防災、研究開発・技術イノベーション戦略、教育、など多岐のテーマにわたる。 本講義では、様々な課題やトピックを通じて、フューチャー・デザインの意義や理論、そして社会実践の最前線を広く学び、数回を使った演習を通じて理解を深める。これら講義や演習を通じて、持続可能な社会形成を導くための社会の仕組みのデザインや、今後求められる技術システムのあり方を検討する。
学習目標	・様々なテーマやトピックに基づく講義および演習を通じて、フューチャー・デザインの理論と社会実践の最前線を知り、その意義について理解を深める。 ・現代の社会システムの限界や課題を知り、将来世代に持続可能な社会と環境を引き継いでいくためにはどのような「社会の仕組み」をデザインすべきか、理解を深める。 ・持続可能社会形成に資する研究や実践を先導していく上で必要となる考え方、あるいは方法論を身につける。
授業計画	オムニバス形式で実施し、以下のようなテーマを扱う予定である。（テーマや順番等については変更がありうる。） ・フューチャー・デザイン（序論） ・持続可能な意思決定を導く社会システムと制度の設計 ・エネルギーシステム ・技術イノベーションとフューチャー・デザイン ・モデルベース・フューチャー・デザイン ・大気環境とサステイナビリティ ・カーボンニュートラルへのフューチャー・デザインの応用 ・グループワーク演習（4回）
授業外における学習	適宜、各回の講義資料を予習すること。
履修条件・受講条件	専門分野は問わないが、持続可能社会の形成に関心があり、学際的なアプローチに関心を持つことが望ましい。また、授業およびグループ演習での積極的な議論参加が求められる。
教科書・教材	毎回の講義で資料を配布する(CLEで配布)。
参考文献	西條辰義編『フューチャー・デザイン - 7世代先を見据えた社会』(勁草書房、2015年) Hara K et al.（2019）Reconciling intergenerational conflicts with imaginary future generations - Evidence from a participatory deliberation practice in a municipality in Japan, Sustainability Science 14（6）: 1605–1619 https://link.springer.com/article/10.1007%2Fs11625-019-00684-x
成績評価	各回の講義内容について学んだことを記載する小レポート（30%）、グループ演習・期末レポート（70%）を想定しているが、最終的な評価法については初回のイントロダクションで説明を行う。
特記事項	履修希望者が受け入れ人数（約50名）を大幅に上回る場合は、履修者選抜を行う場合がある。

科学技術イノベーション政策総合演習

開講科目名	科学技術イノベーション政策総合演習
単位数	2単位　授業形態　演習科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Advanced Seminar on Science, Technology and Innovation Policy
時間割コード	3B2703
定員	10人
担当教員	平川　秀幸、他
対象所属・年次	全研究科大学院生（副専攻/高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」の履修者のみを対象）
開講区分･曜日･時間	集中（夏） （2023年度は8月末から9月の実施を予定している。具体的な授業日程は、決定次第、履習対象者に連絡する。）
開講場所／形態	事前ワークショップ：豊中キャンパス 総合棟I 3階341（COデザインスタジオ） 他大学との合同合宿セミナー（2泊3日）：政策研究大学院大学（東京都港区）を予定 （新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、Zoomなどを用いたメディア授業として開講する可能性がある。）
キーワード	科学技術イノベーション政策、公共政策、科学技術コミュニケーション
授業の目的・概要	科学技術イノベーション政策分野の先端的な知見を得るとともに、様々な視点から政策立案の在り方を検討する。問題分析や政策提言等のグループワークを通じて、得られた知識の応用力を高めるとともに、各拠点の学生間の知的交流を促進する。
学習目標	科学技術イノベーション政策に関する課題について、多様な意見を踏まえつつ、限られた制約（時間・情報・資源等）の中で、一定の成果（政策提言）を生み出す体験をするとともに、各拠点学生との共同作業を通じて、異なる知見の融合方法を習得する。
授業計画	本科目では、科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点（政策研究大学院大学、東京大学、一橋大学、大阪大学・京都大学、九州大学）合同の合宿セミナーを行う。 副専攻/高度副プログラム履修者のみによる事前ワークショップの後、2泊3日の合宿（東京都内にある政策研究大学院大学での開催を予定）において、ゲスト講師による講義や、各拠点の学生とのグループワークを通じて、共同で問題分析や政策提言等の作成・発表を行う。 第1～4回　事前ワークショップ（8月9日(水)） 第5～15回　他大学との合同合宿セミナー（9月8日(金)～10日(日)。2泊3日）
授業外における学習	合同合宿セミナー前、他拠点学生とのグループで、事前課題（基本文献）を読むとともに、テーマに応じてグループ別に情報収集を行う。
履修条件・受講条件	本科目は、副専攻/高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」の履修者のみを対象とする科目である。履修希望者多数の場合は選抜を行う。
教科書・教材	特になし。
参考文献	講義時に適宜紹介・配布する。
成績評価	成果物・提出物等により、総合的に判断する。
特記事項	

メディアリテラシー（放送のプロフェッショナルと社会を考える）

開講科目名	メディアリテラシー（放送のプロフェッショナルと社会を考える）
単位数	2単位　授業形態　演習科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Media Literacy
時間割コード	3B1205
定員	30人程度
担当教員	久保田　テツ、八木　絵香、水町　衣里
対象所属・年次	全研究科大学院生、全学部生
開講区分･曜日･時間	集中　11月6日、7日、10日の実施を予定。
開講場所／形態	豊中キャンパス：総合棟I 3階341（COデザインスタジオ）、学外 （新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、Zoomなどを用いたオンラインでの開講とする可能性がある。）
キーワード	放送、公共、ジャーナリズム、メディア、NHK、映像、インターネット
授業の目的・概要	本科目は、多様なバックグラウンド・視点を持つ受講者と、実際の放送現場で活躍するゲストとのディスカッションを中心に進行する。 具体的には、1）ある社会課題に関する番組の企画制作のミニワークを行い、それに対して、ゲストからコメントを受ける、2）現場見学を通じて、放送の最前線を知る、3）さらに、企画をブラッシュアップするという作業を通じて、情報を送る側の放送倫理を知るとともに、情報を受ける側のメディアリテラシーを学ぶ、ことが本科目の目的である。
学習目標	本科目は、「放送の今と未来」、「放送の公共性」などが幅広く学習できる内容となっている。放送に興味を持っている学生、将来的に、放送業界に携わりたいと考えている学生や、マスコミやジャーナリストなどを希望する学生が、自らの専門性に引き付けた上で、具体的なキャリアイメージと、メディアリテラシーの基礎素養を獲得することが本科目の学習目標である。
授業計画	本科目では、多様な部門に所属するメディア関係者との意見交換などを通じて、番組企画提案を行う。 第1～2回　イントロダクション、および映像視聴と論点の整理 社会問題を対象としたドキュメンタリー番組を視聴し、その中で取り扱われている論点を分類・整理すると同時に、番組の訴求対象などについても検討を加える。 第3～5回　NHK大阪放送局の現場見学および、メディア関係者との意見交換 現場見学、および多様な部門に所属するメディア関係者との意見交換を行う。（ただし、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、現場見学が中止される可能性がある。） 第6～8回　番組企画提案作成のためのグループワーク グループごとに社会問題を対象とした番組の企画提案を作成する。 第9回　中間発表 番組の企画提案の中間発表を行う。 第10～11回　グループワークを通じて、番組の企画書を完成させる。 番組の企画提案をブラッシュアップする。 第12～13回　最終発表会 第14回　発表とメディア関係者からのコメント 第15回　振り返りと総合討論 （注：各回で取り上げる内容は順序を変更する可能性がある。具体的なスケジュールが決まり次第、履修登録をしている学生宛に連絡する。）
授業外における学習	グループによっては授業外のミーティングの可能性がある。
履修条件・受講条件	特別な知識・スキルは必要ない。 授業の実施スケジュール全てに参加できることが履修の条件である。
教科書・教材	適宜映像資料・配布資料を用意する。
参考文献	授業時間内に紹介する。
成績評価	グループワークへの貢献度、および授業中に課す中間（事前）レポートおよび最終レポートにより評価する。
特記事項	定員を超える履修希望者がいる場合には、受講人数の調整を行う。授業初日の2週間前をめどに、履修登録を希望している学生宛に、詳細についてのメールを送信予定。不明な点がある場合には、担当教員まで（stips-staff@cscd.osaka-u.ac.jp）メールで連絡すること。

総合演習（生命倫理と法）
特定研究（生命倫理と法）

開講科目名	総合演習（生命倫理と法）、特定研究（生命倫理と法）
単位数	2単位　授業形態　演習科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Bioethics and Law
時間割コード	220515=総合演習（生命倫理と法）（博士前期）、221407=特定研究（生命倫理と法）（博士後期）
定員	10人程度
担当教員	瀬戸山　晃一
対象所属・年次	全研究科大学院生
開講区分･曜日･時間	秋～冬学期　水曜2限　授業開始日（9月20日）
開講場所／形態	豊中キャンパス：教室はKOAN等で確認すること。
キーワード	生命医科学技術のELSI、臨床倫理、研究倫理、ゲノム情報のプライバシーと遺伝子差別
授業の目的・概要	次世代シーケンサーによる遺伝子検査技術の向上と低コスト化に伴う遺伝子解析研究の発展と遺伝子治療等の臨床応用、ゲノム編集、出生前の遺伝子検査など、現代の生命科学の加速度的な進歩は、遺伝情報に基づく差別や社会的格差の助長といった将来世代にも関わる深刻で新たな倫理的法的社会的問題（ELSI）を次々と提起し、それらへの法整備や社会的対応の社会的要請が極めて強くなってきている。本演習では、着床前診断と胚選別やデザイナーベビーの問題、出生前遺伝子診断と中絶、安楽死や尊厳死などの生命科学技術と現代医療をめぐるバイオエシックスの諸問題（ELSI）の具体的事例を題材に法規制のあり方を検討していく。
学習目標	医療倫理・臨床倫理・研究倫理を包含する学際的な学問領域である生命倫理学のアプローチから、医科学技術の発展に伴い生起してきている新たな倫理的社会的課題（ELSI）に対するガバナンスの是非をめぐる論争の背後にある理論（思想）対立（根源的な問い）を理解する。そして、比較法文化・法制度論的視角、ナッジや行動経済学などの行動科学の視点、さらには法政治哲学的観点からも考察する。それらの知的営為からグローバルで柔軟な思考枠組から課題解決を模索できる知的態度と実践能力を涵養することを教育の主な到達目標とする。
授業計画	【プロローグ】生命倫理と臨床倫理と法学の学問的使命と学際的方法論 第1回　授業ガイダンス（授業目的・講義の進め方・成績評価方法の説明等）・生命倫理とは？ 【第一部】生命倫理の基本原則とパターナリズム：医療情報のプライバシー・遺伝子差別 第2回　生命倫理の原則と自由制約原理：インフォームド・コンセントとパターナリズム 第3回　癌不告知裁判：医療情報の開示と自己決定の意義を考える 第4回　遺伝情報の開示：遺伝情報の特殊性と「知る権利」と「知らないでいる」権利 第5回　遺伝子検査ビジネスと遺伝情報のプライバシー、雇用や保険における遺伝子差別 第6回　遺伝子差別禁止法とその副作用（情報の非対称性と逆選択） 【第二部】生殖補助医療をめぐる生命倫理上の諸問題：法的規制と指針（ガイドライン） 第7回　着床前診断と胚選別（救世主兄弟）、出生前診断と中絶：内なる優生思想 第8回　体外受精、人工授精と出自を知る権利、死後生殖と親子関係、受精卵売買 第9回　代理出産（懐胎）と親子関係（子どもの法的地位）、生殖ツーリズム 【第三部】人生の最終段階における医療を巡る意思決定：臨床倫理の方法論と法政策 第10回　重度障害新生児の選択的治療中止、輸血拒否 第11回　消極的安楽死：延命治療停止（死の自己決定権とアドバンス・ケア・プランニング） 第12回　積極的安楽死：医師の自殺幇助・尊厳死（死の権利） 【第四部】医療資源配分の公平性・研究不正と研究倫理 第13回　臓器移植：臓器売買の闇市場問題（医療へのアクセスの平等性） 第14回　医学研究（臨床研究）倫理：研究不正事案と研究公正 第15回　全体の総括とレポート試験について
授業外における学習	双方向的な授業実践を実現するため、指示したリーディングアサイメントに目を通し、授業の内容に関するフィードバック・コメントの作成の提出とともに他の受講生のコメント内容に目を通す形での復習と予習に約60分程度を想定している。
履修条件・受講条件	受講希望者は、自己紹介（専攻や職歴等のバックグラウンドや将来の展望など）及び受講希望理由を、600文字から800文字程度でワードで作成しsetoyama@koto.kpu-m.ac.jpに添付ファイルで提出すること。なお送付の際には、件名に「生命倫理と法2023年度、受講希望　氏名」と記載すること。
教科書・教材	甲斐克則編『レクチャー生命倫理と法』（法律文化社、2012年）。その他の教材は、参考文献や新聞記事の中から、必要に応じて厳選してコピー配布する予定。
参考文献	適宜、授業の際に指示する。
成績評価	授業中の質疑応答やディスカッションへの能動的参加及び授業の教育効果向上のための貢献度15%、毎回の授業フィードバック・コメントの記述内容35%を平常点とする。学期末試験は、レポート試験（評価割合50%）とし、平常点（評価割合50%）との総合で評価する。
特記事項	感染症の状況によっては、Zoom等のリモートによる出席も認める場合有り。高等司法研究科（法科大学院）との合同授業であり初回授業は9月20日（水）2限であり可能な限り出席すること。専門分野の異なる多様なバックグラウンドを有する受講生によるディスカッションを通して自らの見解を相対化し、多様な視角からのディスカッションによる教育効果を狙いとしているので積極的な参加を期待する。

ライフサイエンスの倫理と公共政策学

開講科目名	ライフサイエンスの倫理と公共政策学
単位数	2単位　授業形態　講義科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Ethics and Public Policy of Life Sciences
時間割コード	250520
定員	30人
担当教員	加藤　和人、他
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	集中　9月5日（火）、6日（水）、15日（金）1限～5限
開講場所／形態	教室はKOAN等で確認すること。 （新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、Zoomなどを用いたオンラインでの開講とする可能性がある。）
キーワード	生命倫理、ガバナンス、テクノロジーアセスメント、ゲノム、iPS、患者参画
授業の目的・概要	20世紀後半から急速に発展してきたライフサイエンスは、現在も多くの新しい分野を開拓しつつ、発展を続けている。同時に、遺伝情報やヒト細胞の取り扱いなど、研究から生まれる倫理的課題・社会的課題が生じてきている。ライフサイエンスが社会から信頼された形で進み、研究とその応用からうまれる成果が最大限に生かされるためには、社会との接点分野で生じる課題を抽出し、対応策を考える必要がある。また、本講義では、ライフサイエンスの倫理的・社会的課題にどのようなものがあり、それに対して、どのような対応がとられているかを、国際的な対応、各国での対応、研究コミュニティーによる対応など、多様なレベルの具体例を紹介しながら、講義する。また、最新の技術の社会への導入に際して、市民を含む多様な観点から評価する活動であるテクノロジーアセスメントについても、理論面と具体的ケースの両方を取り上げて解説する。
学習目標	・ライフサイエンスの倫理と政策に関する課題と対応の方法について全体像とともに、いくつかの具体例を学ぶことができる。 ・最新のライフサイエンス研究に関する倫理的・政策的課題について、多様な分野の視点を取り入れて検討することができる。
授業計画	第1回　イントロダクション-ライフサイエンスの倫理的・社会的課題（加藤和人） 第2回　ヒトゲノム編集の倫理的・社会的課題（加藤和人） 第3回　グループディスカッション（加藤和人） 第4回　ヒトゲノム編集のガバナンスを考える（加藤和人） 第5回　グループディスカッション（加藤和人） 第6回　ゲノム医療をめぐる倫理的・法的・社会的課題（1）（加藤和人） 第7回　ゲノム医療をめぐる倫理的・法的・社会的課題（2）（加藤和人） 第8回　幹細胞研究と再生医学の倫理的・社会的課題（1）（加藤和人） 第9回　幹細胞研究と再生医学の倫理的・社会的課題（2）（加藤和人） 第10回　グループディスカッション（加藤和人） 第11回　日本と諸外国の生命倫理政策について（加藤和人） 第12回　医学研究における患者参画（加藤和人） 第13回　医療と医学－科学技術政策の視点から（1）（原山優子） 第14回　医療と医学－科学技術政策の視点から（2）（原山優子） 第15回　総合討論（原山優子・加藤和人） 講義日程とテーマは変更することがあるので、医の倫理と公共政策学のウェブサイトを確認すること。 https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/eth/index.htm
授業外における学習	レポートを作成する。
履修条件・受講条件	理科系、文科系、いずれを専門とする学生の方でも参加でき、ライフサイエンスを専門としない研究科からの参加を特に歓迎する。講義の中ではディスカッション形式で参加者が主体的に議論する時間を設ける予定。最新のライフサイエンス研究に関する倫理的・政策的課題について、多様な分野の視点を取り入れて検討する経験ができる。
教科書・教材	特になし
参考文献	加藤和人「生命科学の倫理と科学コミュニケーション―日本の課題と科学研究コミュニティへの期待」位田隆一・片井修・水谷雅彦・矢野智司編『倫理への問いと大学の使命』（京都大学学術出版会、119-131頁、2010年）。
成績評価	講義参加（発言や質問など、積極的な取り組み姿勢）（20%）、レポート（80%）
特記事項	授業を受講するにあたり特別な配慮を必要とする学生は、授業開始前に申し出ること。 全講義回数の2/3以上の講義参加があった者を採点の対象とする。

産業環境マネジメント論

開講科目名	産業環境マネジメント論
単位数	2単位　授業形態　講義科目　開講言語　日本語・英語
開講科目名(英)	Environmental management for sustainable industrial systems
時間割コード	280844
定員	50人
担当教員	東海　明宏
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	春～夏学期　火曜3限
開講場所	吹田キャンパス：工学研究科M1棟213
キーワード	工学と公共政策、リスク評価と管理、予防原則、リスクガバナンス、NATECH
授業の目的・概要	産業活動がもたらす環境負荷やリスクを低減するための企業と組織の環境マネジメントについて、その理念や方法、実例を論じる。
学習目標	産業と環境のシステム、環境管理における企業の自主管理、リスク評価の方法、拡大生産者責任等の概念をシステムズアプローチによって理解する。
授業計画	1. 序論 環境規制と企業の自主管理 2. 資源性と有害性を有する物質の管理 化審法と化管法に基づく化学物質評価・管理、金属のリスク評価、製品含有物質の評価と管理、RoHS指令 3. サプライチェーンを通じた環境管理 欧州の化学物質規制、REACH、WEEE、CIRCULAR ECONOMY 4. 産業技術のリスク評価 技術のリスクと利益の関係、リスク・リスクトレードオフ、リスクコミュニケーション 5. 地球的規模での化学物質評価 グラスホッパー効果 6. 極端事象への備え 災害と環境と社会
授業外における学習	3回の講義に対して1回の頻度で宿題を課す。
履修条件・受講条件	特になし。
教科書・教材	各回の講義において、資料を配布する。
参考文献	中西準子『環境リスク学―不安の海の羅針盤』(日本評論社、2004年)。学術雑誌として、Risk Analysis, Environmental Science & Technology、日本リスク研究学会誌、環境科学会誌。
成績評価	レポートと小テストによって評価する。
特記事項	講義資料は、WebCTにアップロードする。

サステナブルシステムデザイン論

開講科目名	サステナブルシステムデザイン論
単位数	2単位　授業形態　講義科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Sustainable System Design Engineering
時間割コード	281260
定員	70人
担当教員	小林　英樹
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	春～夏学期　火曜3限
開講場所／形態	吹田キャンパス：工学研究科M4棟201
キーワード	ライフサイクル工学、設計工学、環境学
授業の目的・概要	人類の最重要課題の一つである持続可能性問題の総合的な理解と、問題解決に向けた人工物システムデザインによるアプローチを習得する。
学習目標	・持続可能性問題を構成する地球環境問題、社会経済問題を俯瞰できるようになる。 ・適切なライフサイクルオプションを選択する方法を理解できるようになる。 ・方法論に基づいて簡単なライフサイクルデザインを行えるようになる。
授業計画	第1回　総論 第2回　持続可能性問題（1） 第3回　持続可能性問題（2） 第4回　ライフサイクルプランニング（1） 第5回　ライフサイクルプランニング（2） 第6回　ライフサイクル評価（1） 第7回　ライフサイクルデザイン演習（1） 第8回　ライフサイクルデザイン演習（2） 第9回　演習課題のレビュー 第10回　ライフサイクル評価（2） 第11回　プロダクトおよびプロセス技術（1） 第12回　プロダクトおよびプロセス技術（2） 第13回　最新トピックス（1） 第14回　最新トピックス（2） 第15回　まとめと試験
授業外における学習	毎回提示する復習問題の解答を考えること。
履修条件・受講条件	理学系、工学系の学部卒業程度の素養が必要。
教科書・教材	小林英樹『持続可能システムデザイン学』（共立出版、2022年）。教員の配布資料はレジメのみ。
参考文献	上記教科書
成績評価	出席、レポート、演習、期末試験による総合評価。
特記事項	実務経験のある教員による授業科目。

ナノテクノロジー社会受容特論B

開講科目名	ナノテクノロジー社会受容特論B
単位数	2単位　授業形態　講義科目　開講言語　日本語
開講科目名(英)	Social Engagement on Nanotechnology B
時間割コード	290734
定員	30人
担当教員	竹田　精治、伊藤　正
対象所属・年次	全研究科大学院生1・2年
開講区分･曜日･時間	集中（春～夏）開講日時http://www.insd.osaka-u.ac.jp/nano/01_daigaku/index.html参照
開講場所／形態	豊中・エマージングサイエンスデザインR3センター セミナー室、その他 http://www.insd.osaka-u.ac.jp/nano/01_daigaku/index.html参照
キーワード	社会受容、リスク管理、国際標準化、科学技術コミュニケーション
授業の目的・概要	ナノ理工学人材育成においては、社会との関わりの中での技術応用・ナノリスク・標準化・社会とのコミュニケーション・倫理の問題がこれから益々重要となってくる。本科目はこれらに応えるものであり、グローバル化の中で製品･デバイスの新規開発に従事する科学技術者自らが果たすべき社会的責任を自覚し、身につける。 担当コーディネータ：阿多誠文特任教授（(株)日本ゼオン）、竹田精治特任教授、伊藤正特任教授（エマージングサイエンスデザインR^{3}センター）、藤岡透特認教授（同）
学習目標	ナノテクノロジーの社会普及、ナノリスク、国際標準化、科学技術コミュニケーションなどを含む社会受容問題に関心を持つことができるとともに、国際社会における社会受容問題と自らの科学技術の研究開発との関わりを積極的に考えることができる。
授業計画	春～夏学期の土曜日に4回にわたり集中講義として開講する。外部講師の日程が確定した段階で、講師、講義主題と合わせて、http://www.insd.osaka-u.ac.jp/nano/01_daigaku/index.html に詳細を掲載する。 ナノテクノロジーの社会受容に関する視野を身につけ、産業化における問題点、国際標準化、知財、オープンイノベーション、リスクアセスメント並びに管理手法等の基礎知識、総合デザイン、科学技術政策の考え方、科学技術コミュニケーション、科学技術における倫理的・法的、社会的課題（ELSI）、SDGsなどを学ぶ。さらにいくつかの検討すべきテーマを取り上げて、ケーススタディーを自分の専門領域または設定されたテーマに対して行う。数名の政策担当者、企業開発担当者、学内教員等が複数回を担当する。内容は、講師による総論・各論の解説と受講生自らが参加する討論及び演習により構成される。 各回の講義で質問事項があれば、講師名を明記して、電子メールにてエマージングサイエンスデザインR^{3}センターナノプログラム事務局に問い合わせること。 宛先：nano-program@insd.osaka-u.ac.jp
授業外における学習	最終回の総合討論に向けた課題テーマに対する資料準備
履修条件・受講条件	本副専攻/高度副プログラムの選択科目である。また、「ナノ高度学際教育研究訓練プログラム」博士前期課程の副専攻プログラム履修者はコースを越えて選択必修であり、高度副プログラム履修者は、可能な限り共通科目としてコースを越えて履修することを推奨する。「ナノ高度学際教育研究訓練プログラム」博士後期課程副専攻・高度副プログラムの受講者、博士後期課程社会人ナノ理工学特別コースの高度副プログラム受講生、および博士後期課程高度副プログラム受講の社会人特別選抜学生は選択必修である。教室の余裕があれば、その他の学生の受講も許可する。
教科書・教材	教科書は用いないが、毎回の講義の前に、http://www.insd.osaka-u.ac.jp/nano/01_daigaku/ index.html に講義資料を掲載するので、各自ダウンロードして講義の際に持参すること。
参考文献	必要に応じて講義の際に示されることがある。
成績評価	出席、質問、討論および演習における役割、およびレポートを総合的に判定する。
特記事項	開講形式は、主教室は豊中・センターセミナー室とし、社会人にはライブ配信により東京地区、四日市地区など、PCにて全国での遠隔受講も可能とする。詳しい開講日時、遠隔教室の場所については、http://www.insd.osaka-u.ac.jp/nano/01_daigaku/index.html に発表する。 なお、本講義は社会人教育受講生も一部は豊中・センターセミナー室で同時に受講・討論を行うので、大学院生は原則豊中・センターセミナー室での受講を推奨する。講義形態については追って通知するが、対面またはオンライン受講を可とする予定である。

特殊講義（開発と環境）
特殊研究（開発と環境）

開講科目名	特殊講義（開発と環境）、特殊研究（開発と環境）
単位数	2単位　授業形態　演習科目　開講言語　英語
開講科目名(英)	Lectures: Development and Environment（博士前期） Workshop: Development and Environment（博士後期）
時間割コード	310778=特殊講義（開発と環境）（博士前期）、310779=特殊研究（開発と環境）（博士後期）
定員	15人
担当教員	大槻　恒裕
対象所属・年次	全研究科大学院生
開講区分･曜日･時間	秋～冬学期　火曜2限
開講場所	教室はKOAN等で確認すること。
キーワード	経済、環境、開発
授業の目的・概要	This course will enhance the understandings of the underlying problems in pursuing interlinked but often competing social objectives-environmental conservation and economic development. This course will cover selective topics in contemporary issues in environmental conservation and development, including property rights and natural resource management, economic growth and the environmental quality, international trade and environment, and transboundary environmental problems.
学習目標	Students are expected to understand the underlying problems in pursuing interlinked but often competing social objectives-environmental conservation and economic development. Students will gain in opportunities to apply the economic theories and quantitative methods to systematically analyze the implication of alternative public policies in the light of welfare or sustainability criteria.
授業計画	第1回　Introduction: fundamental concepts in development and environment 第2回　Background of environmental management and sustainability 第3回　Economic foundation for efficient management and sustainable development 第4回　The economic systems and the environment – Static and dynamic efficiency 第5回　The economic systems and the environment – Defining sustainability 第6回　Methods for valuing environment 第7回　Concepts of property rights, externalities, and environment 第8回　Economic analysis of property rights and environment 第9回　Fisheries conservation 第10回　Economics of local air and water pollution 第11回　Background and economic analysis of tropical forest conservation 第12回　Background of poverty and sustainability 第13回　Economics of poverty and resource degradation 第14回　Population and the environment 第15回　Climate change and international coordination
授業外における学習	Students are expected to read the required readings in prior to each class, and to review the lecture notes after the class. They are also expected to do homework assignment from time to time.
履修条件・受講条件	ミクロ経済学の基本的知識があること (It is desirable to have knowledge of introductory microeconomics)。
教科書・教材	特になし
参考文献	講義第1日目にリーディングリストを配布する（I will distribute the reading list at the first lecture)。 Major references: Tietenberg, Tom and Lynne Lewis (2011) Environmental and Natural Resource Economics (9th Edition), Prentice Hall.
成績評価	平常点及び期末レポートを総合して評価する（Grade will depend on a term paper, class participation, and assignments)。
特記事項	講義は原則として英語で行う（Lecture is mainly conducted in English)。

京都大学・科目一覧

※　副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」の受講生は、大阪大学と京都大学との間における単位の相互認定に関する協定書に基づき、京都大学で実施される下記科目を履修し、単位を取得することができます。履修希望者は、COデザインセンターの担当教員まで、授業開始日の半年から3ヶ月以上前までに相談して下さい。

科目カテゴリー	授業科目名	学期	主担当教員（研究科）	単位
選択科目Ⅰ：基軸科目群	政策のための研究方法論	前期	カール・ベッカー（学際融合教育研究推進センター）	2
	現代社会と科学技術A	前期	川上 浩司（医学研究科）、他	1
	共生社会環境論演習4A	前期	広井 良典（人と社会の未来研究院）	2
	現代規範理論	前期	森川 輝一（公共政策大学院）	2
	科学技術イノベーション政策特別演習	夏期集中	川上 浩司（医学研究科）	1
	科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング	後期	伊勢田 哲治（文学研究科）	2
	公共政策論Ⅰ	後期	佐野 亘（人間・環境学研究科）	2
	共生社会環境論演習3B	後期	佐野 亘（人間・環境学研究科）	2
	共生社会環境論演習4B	後期	広井 良典（人と社会の未来研究院）	2
選択科目Ⅱ：イシュー科目群	経済原論Ⅰ（応用ミクロ経済学）	前期	伊藤 順一（農学研究科）	2
	FinTech概論	前期	岩下 直行（公共政策大学院）	2
	デジタルガバメント論	前期	岩下 直行（公共政策大学院）	2
	情報社会論	前期	大手 信人（情報学研究科）	2
	開発政治学	前期	関山 健（総合生存学館）	2
	疫学Ⅰ（疫学入門）	前期前半	中山 健夫（医学研究科）	1
	文献評価法	前期後半	中山 健夫（医学研究科）	1
	科学技術イノベーション政策総合演習	夏期集中	川上 浩司（医学研究科）	2
	応用経済学	後期	依田 高典（経済学研究科）	2
	健康情報学Ⅰ	後期	中山 健夫（医学研究科）	2
	国際環境政治学	後期	関山 健（総合生存学館）	2
	医薬品の開発と評価	後期後半	川上 浩司（医学研究科）	1
	医薬政策・行政	後期前半	川上 浩司（医学研究科）	1
	まちづくりとまち経営	後期	要藤 正任（経営管理大学院）	2

2023（令和5）年度 授業時間割表（2023年3月現在）

（吹：吹田キャンパス、豊：豊中キャンパス、メ：メディア授業、［他］：その他）

【春学期】

	月	火	水	木	金
1限 08:50-10:20				・フィールド調査法特講（博士前期）吹	
2限 10:30-12:00				・フィールド調査法特講（博士前期）吹	
3限 13:30-15:00		・産業環境マネジメント論（博士前期）吹 ・サステナブルシステムデザイン論（博士前期）吹	・科学技術思想史演習II（科学技術社会論セミナー）（博士前期）［他］	・フューチャー・デザイン（博士前期）吹	
4限 15:10-16:40		・ファシリテーション入門（院）豊 ・科学技術社会論講義II（疑似科学を考える）（博士前期）豊		・科学技術社会論入門（院）メ	
5限 16:50-18:20			・社会の中の科学技術概論（隔週）（院）豊		
6限 18:30-20:00			・社会の中の科学技術概論（隔週）（院）豊		
7限 20:10-21:40					

【夏学期】

	月	火	水	木	金
1限 08:50-10:20				・フィールド調査法特講（博士前期）吹	
2限 10:30-12:00				・フィールド調査法特講（博士前期）吹	
3限 13:30-15:00		・産業環境マネジメント論（博士前期）吹 ・サステナブルシステムデザイン論（博士前期）吹	・科学技術思想史演習II（科学技術社会論セミナー）（博士前期）［他］	・フューチャー・デザイン（博士前期）吹	
4限 15:10-16:40		・倫理的・法的・社会的課題（ELSI）入門：理論編（院）メ ・科学技術社会論講義II（疑似科学を考える）（博士前期）豊		・科学史・科学哲学入門（院）メ	
5限 16:50-18:20			・社会の中の科学技術概論（隔週）（院）豊		
6限 18:30-20:00			・社会の中の科学技術概論（隔週）（院）豊		
7限 20:10-21:40					

【春学期（その他）】システム思考（4/14、21、28、5/12、26）（院）吹
デザイン思考（4/14、21、28、5/12、19、26、6/2、9）（院）吹

【集中（夏）】科学技術コミュニケーション演習（9/27、28、29）（院）豊
科学技術イノベーション政策総合演習（8/9、9/8～10）（院）豊&［他］
ライフサイエンスの倫理と公共政策学（9/5、6、15）（修士課程）吹
ナノテクノロジー社会受容特論B（春～夏学期中）（博士前期）豊&［他］

【秋学期】

	月	火	水	木	金
1限 08:50-10:20					
2限 10:30-12:00		・特殊講義(開発と環境)(博士前期)豊 ・特殊研究(開発と環境)(博士後期)豊	・総合演習(生命倫理と法)(博士前期)豊 ・特定研究(生命倫理と法)(博士後期)豊		
3限 13:30-15:00		・科学技術社会論演習II(科学技術社会論文献講読)(博士前期)豊	・科学技術思想史講義II(先端テクノロジーと倫理)(博士前期)豊		
4限 15:10-16:40					
5限 16:50-18:20	・社会における科学技術特定演習(博士前期)吹		・研究手法入門(隔週)(院)豊		
6限 18:30-20:00			・研究手法入門(隔週)(院)豊		
7限 20:10-21:40					

【冬学期】

	月	火	水	木	金
1限 08:50-10:20					
2限 10:30-12:00		・特殊講義(開発と環境)(博士前期)豊 ・特殊研究(開発と環境)(博士後期)豊	・総合演習(生命倫理と法)(博士前期)豊 ・特定研究(生命倫理と法)(博士後期)豊		
3限 13:30-15:00		・科学技術社会論演習II(科学技術社会論文献講読)(博士前期)豊	・科学技術思想史講義II(先端テクノロジーと倫理)(博士前期)豊		
4限 15:10-16:40		・実践者から学ぶ科学技術コミュニケーション(院)メ			
5限 16:50-18:20	・社会における科学技術特定演習(博士前期)吹		・研究手法入門(隔週)(院)豊		
6限 18:30-20:00			・研究手法入門(隔週)(院)豊		
7限 20:10-21:40					

【集中(秋〜冬)】 メディアリテラシー(放送のプロフェッショナルと社会を考える)(11/6、7、10)(院)豊&[他]
倫理的・法的・社会的課題(ELSI)入門:実践編(10〜11月)(院)吹

【通年】 研究プロジェクト(月1回、水5・6限)(院)メ

2023（令和5）年度 CO デザインセンター　学年暦

2023年4月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3 入学式	4	5	6	7	8
9	10	11 ①❶	12 ①❶	13 ①❶	14 ①❶	15
16	17 ①❶	18 ②❷	19 ②❷	20 ②❷	21 ②❷	22
23	24 ②❷	25 ③❸	26 ③❸	27 ③❸	28 ③❸	29
30						

5月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8 ③❸	9 ④❹	10 ④❹	11 ④❹	12 ④❹	13
14	15 ④❹	16 ⑤❺	17 ⑤❺	18 ⑤❺	19 ⑤❺	20
21	22 ⑤❺	23 ⑥❻	24 ⑥❻	25 ⑥❻	26 ⑥❻	27
28	29 ⑥❻	30 ⑦❼	31 ⑦❼			

6月

日	月	火	水	木	金	土
				1 ⑦❼	2 ⑦❼	3
4	5 ⑦❼	6 ⑧試❽	7 ⑧試❽	8 ⑧試❽	9 ⑧試❽	10
11	12 ⑧試❽	13 ①❾	14 ①❾	15 ①❾	16 ①❾	17
18	19 ①❾	20 ②❿	21 ②❿	22 ②❿	23 ②❿	24
25	26 ②❿	27 ③⓫	28 ③⓫	29 ③⓫	30 ③⓫	

7月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3 ③⓫	4 ④⓬	5 ④⓬	6 ④⓬	7 ④⓬	8
9	10 ④⓬	11 ⑤⓭	12 ⑤⓭	13 ⑤⓭	14 ⑤⓭	15
16	17	18 ⑥⓮	19 ⑥⓮	20 ⑥⓮	21 ⑥⓮	22
23	24 ⑤⓭	25 ⑦⓯	26 ⑦⓯	27 ⑦⓯	28 ⑦⓯	29
30	31 ⑥⓮					

8月

日	月	火	水	木	金	土
		1 ⑧試試	2 ⑧試試	3 ⑧試試	4 ⑧試試	5
6	7 ⑦⓯	8 ⑧試試	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8月8日は月曜日の振替授業・試験実施日

9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2 ①❶	3 ①❶	4 ①❶	5 ①❶	6 ①❶	7
8	9	10 ②❷	11 ②❷	12 ②❷	13 ②❷	14
15	16 ②❷	17 ③❸	18 ③❸	19 ③❸	20 ③❸	21
22	23 ③❸	24 ④❹	25 ④❹	26 ④❹	27 ④❹	28
29	30 ④❹	31 ⑤❺				

11月

日	月	火	水	木	金	土
			1 ⑤❺	2	3	4
5	6	7 ⑥❻	8 ⑥❻	9 ⑤❺	10 ⑤❺	11
12	13 ⑤❺	14 ⑦❼	15 ⑦❼	16 ⑥❻	17 ⑥❻	18
19	20 ⑥❻	21 ⑧試❽	22 ⑧試❽	23	24 ⑦❼	25
26	27 ⑦❼	28 ⑦❼	29 ⑧試❽	30 ⑧試❽		

11月28日は木曜日の振替授業実施日
11月29日は月曜日の振替授業・試験実施日

12月

日	月	火	水	木	金	土
					1 ⑧試❽	2
3	4 ①❾	5 ①❾	6 ①❾	7 ①❾	8 ①❾	9
10	11 ②❿	12 ②❿	13 ②❿	14 ②❿	15 ②❿	16
17	18 ③⓫	19 ③⓫	20 ③⓫	21 ③⓫	22 ③⓫	23
24	25 ④⓬	26	27	28	29	30
31						

2024年1月

日	月	火	水	木	金	土
	元日 1	2	3	4 ④⓬	5 ④⓬	6
7	8	9 ④⓬	10 ④⓬	11 ⑤⓭	12	13
14	15 ⑤⓭	16 ⑤⓭	17 ⑤⓭	18 ⑥⓮	19 ⑤⓭	20
21	22 ⑥⓮	23 ⑥⓮	24 ⑥⓮	25 ⑦⓯	26 ⑥⓮	27
28	29 ⑦⓯	30 ⑦⓯	31 ⑦⓯			

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1 ⑧試試	2 ⑦⓯	3
4	5 ⑧試試	6 ⑧試試	7 ⑧試試	8 ⑧試試	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

2月8日は金曜日の振替試験実施日

3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

○数字 ターム科目の授業日
試 ターム科目の試験日
●数字 セメスター科目の授業日
試 セメスター科目の試験日

授業時間

第1時限	8:50	～	10:20
第2時限	10:30	～	12:00
第3時限	13:30	～	15:00
第4時限	15:10	～	16:40
第5時限	16:50	～	18:20
第6時限	18:30	～	20:00
第7時限	20:10	～	21:40

土・日・祝日及び休業日又は授業未実施期間を示す（太字は祝日）。
大学行事又は入試準備のための臨時の授業未実施日（予定）を示す。

春学期授業開講期間（4/11～6/12）
夏学期授業開講期間（6/13～8/8）
秋学期授業開講期間（10/2～12/1）
冬学期授業開講期間（12/4～2/8）

〈春、夏、春・夏学期　履修登録期間〉
4月　3日（月）　15時00分～
4月　6日（木）　12時00分

〈夏学期　変更登録期間〉
6月13日（火）　9時30分～
6月19日（月）　16時30分

〈秋、冬、秋・冬学期　履修登録期間〉
9月　4日（月）　13時00分～
9月13日（水）　13時00分

〈冬学期　変更登録期間〉
12月　4日（月）　9時30分～
12月　8日（金）　16時30分

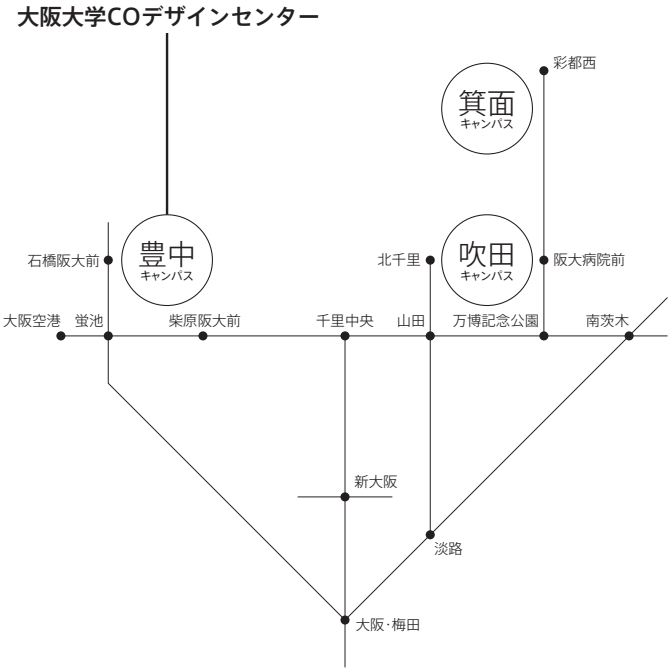
大阪大学 CO デザインセンター所在地等

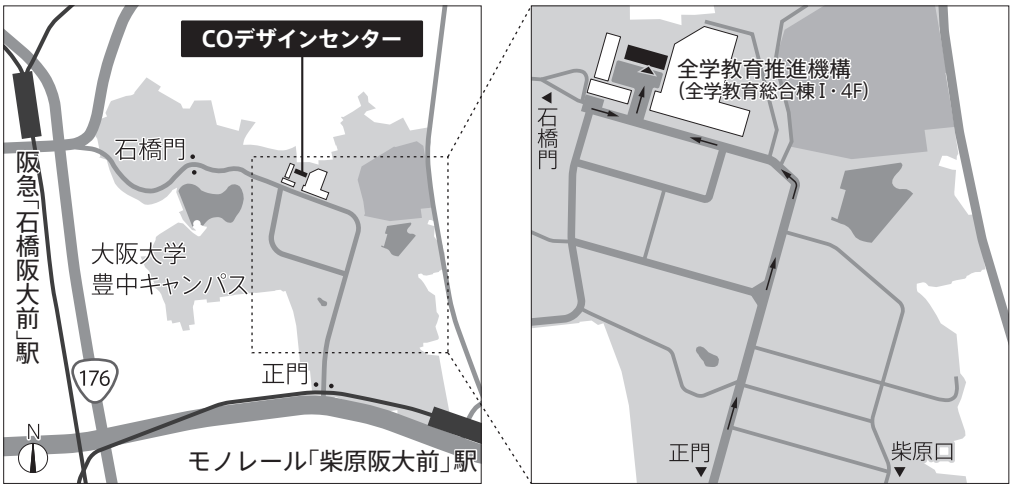
〒560-0043　豊中市待兼山町1-16

大阪モノレール　柴原阪大前駅下車　北西へ徒歩約10分

阪急電車宝塚線　石橋阪大前駅下車　東へ徒歩約15分

全学教育推進機構　全学教育総合棟Ⅰ　4階





履修に関する問い合わせ先

全学教育推進機構等事務部　CO デザインセンター担当

Tel.　06-6850-6214

E-mail　stips-staff@cscd.osaka-u.ac.jp

URL　https://www.cscd.osaka-u.ac.jp/

http://stips.jp/

http://stips.jp

Osaka University Center for the Study of Co* Design